



Fujitsu Sports Season Book

2026 Spring



FUJITSU

Fujitsu



挑戦に終わりはない

Fujitsu Sports Season Book

2026 Spring
Track & field team
American football "Frontiers"
Women's Basketball "Red Wave"
Activity/Action and Legacy



発行・制作
富士通株式会社
〒211-8588

Employee Success本部 企業スポーツ推進室
神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1

発行：2026年5月
本誌掲載の文庫、写真、イラストなどの無断転載・複製を禁じます。

スポーツを、富士通の 価値創造を支える領域へ

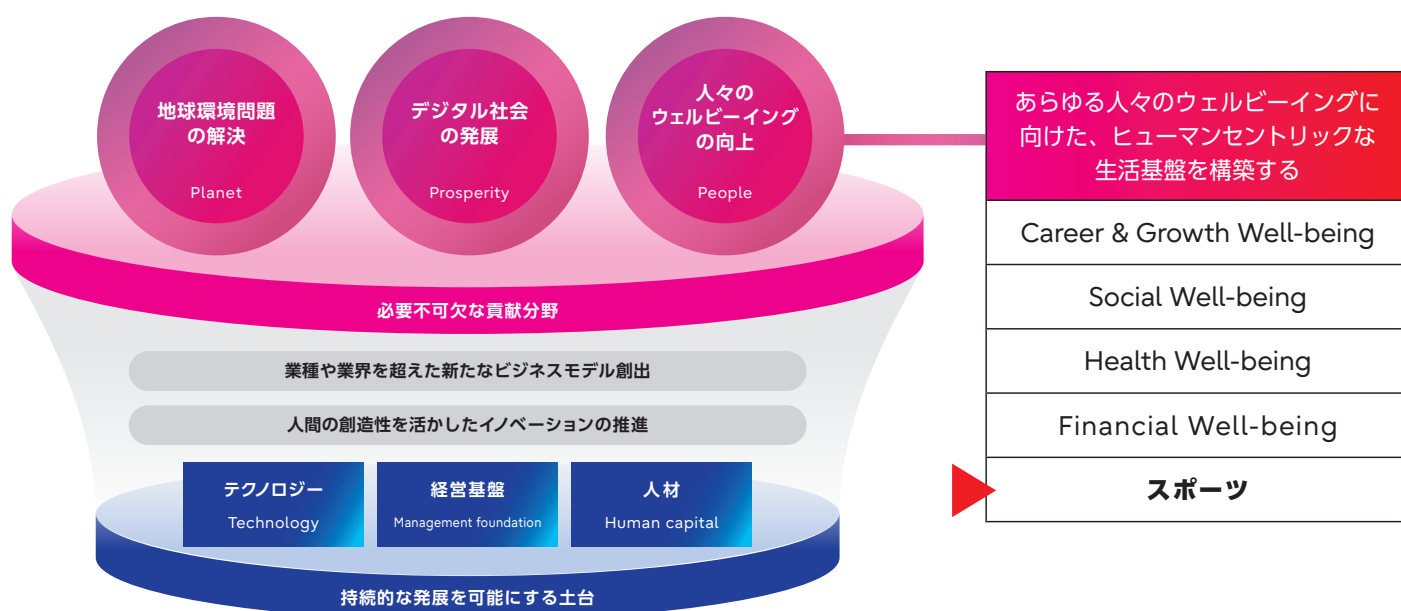
富士通は、企業スポーツを通じて企業イメージの向上、地域社会との連携、従業員エンゲージメントの強化に取り組むとともに、顧客とのコラボレーション機会を創出し、ビジネスへの貢献を目指しています。さらに、長年続けてきたスポーツ支援を、社会に良い変化をもたらすだけでなく、未来の企業価値につながる“資産”として再定義し、2025年度にはマテリアリティに「スポーツ」を新たに追加しました。企業スポーツが育んできた選手・チームの成長、挑戦する文化、地域とのつながりなどの価値を、「Victory（勝利）」と「Value（価値創造）」の両立によってさらに広げ、社会と企業の双方にポジティブなインパクトをもたらす領域として位置づけています。

社会の期待と企業活動を結びつける スポーツの力

社会にも企業にも欠かせないテーマ——それが「人々のウェルビーイングの向上」です。富士通は、この価値をスポーツの力で実現するため、2025年度にマテリアリティへ「スポーツ」を追加しました。スポーツは、健康や学び、多様性の尊重、コミュニティ形成など、多方面からウェルビーイングに寄与できる分野です。

富士通は、この力を企業活動における価値として正面から活かし、社会との関わり方をより戦略的に進化させていきます。

富士通グループのマテリアリティにおけるスポーツの位置づけ



マテリアリティとは、企業が持続的に成長するために優先的に取り組むべき重要課題です。

近年では、事業戦略への組み込みが企業評価にも直結するなど、その重要性が高まっています。

富士通は、スポーツを図のようにマテリアリティに位置づけ、企業価値と社会価値をつなぐ新たな領域として取り組んでいます。

挑戦に終わりはない スポーツの力で、人と社会をつなぎ、ポジティブな変化を生み出す

■ Fujitsu Sports とは

スポーツの力で、 社会に貢献する富士通の挑戦

富士通が展開するスポーツ活動全体の総称です。陸上競技部、アメリカンフットボール部、女子バスケットボール部、女子チアリーダー部といった強化運動部に加え、男子バレーボール部や男子バスケットボール部などの一般運動部も含まれています。

また、練習環境や社内支援体制、長年培ってきたスポーツノウハウなど、広範なスポーツアセットも保有しています。

競技力の向上にとどまらず、地域貢献、次世代育成、社員の健康促進やウェルビーイングの向上など、スポーツの力を活かした多面的な取り組みを展開しています。

■ Fujitsu Sports の取り組み

Fujitsu Sports は、「Victory（勝利）」と「Value（価値）」という2つの「V」を軸に活動を展開しています。競技力の向上と社会的価値の創出を両立させることで、スポーツの新たな可能性を切り拓いています。

Victory（勝利）

トップレベルの競技力を追求し、感動と誇りを届けることを目指しています。選手の育成、戦略的な強化、ファンとの一体感を通じて、スポーツの本質的な魅力を発信しています。

Value（価値）

スポーツを通じて生まれる社会的価値を重視し、以下のような取り組みを展開しています。

- **地域社会への貢献**：川崎市との連携をはじめ、地域イベントやスポーツ教室などを通じて、地域住民とのつながりを深めています。
- **社員の共感とエンゲージメント**：スポーツを通じて社員の健康やモチベーションを高め、企業文化の醸成に寄与しています。
- **持続可能性とマネタイズ**：チケットの有料化やグッズ販売などを通じて、スポーツの価値を高める取り組みを行っています。
- **社会的インパクトの可視化**：国際的な指標「B4SI (Business for Societal Impact)」を活用し、活動の社会的価値を定量的に評価する取り組みも進めています。

■ Fujitsu Sports の人材

現役時代はもちろん、引退後も社内外で活躍できる人材を輩出しています。スポーツで培った経験やスキルを、次のステージでも活かせる環境づくりを進めています。

創部以来、各部“日本一”“世界一”を 目指し活動、各競技界を牽引



競技だけでなく、社業でも Fujitsu Sports のOB・OGが活躍

過去：「現役中は競技に集中すべき」が基本の考え方。

現在：「キャリアは自分で築く時代」。競技とキャリア形成はやり方次第で両立できる。企業スポーツ推進室は、個々の人のキャリア形成実現に向けて現役中からサポート。

アメリカンフットボール部

競技現役中から社業に従事。

陸上競技部、女子バスケットボール部

主に競技引退後より社業に従事（セールス、SE、コーポレートなど、さまざまな職場に配属）。

陸上競技部



1990年、それまで全国各地の事業所で活動していた部員を集結させると共に、全国で活躍していた新卒者を迎え、「富士通陸上競技部」を発足。バルセロナ1992オリンピックに3選手が出場したのを皮切りに、パリ2024オリンピックでは5選手が出場、9大会連続して日本代表選手を輩出。また、パリ2024パラリンピックには、2大会連続して日本代表選手を輩出した。

元日の風物詩となっている「ニューイヤー駅伝」においても、創部11年目の2000年に大会初優勝、2009年、2021年と3度の優勝を果たし、名実ともに日本陸上界をリードするチームとなった。



総監督
高橋 健一



監督兼長距離ブロック長
三代 直樹

創部

1990年

ニューイヤー
駅伝優勝

3回

部員

31名

2026年5月 活動拠点を
Fujitsu Sportsの本拠地・川崎市へ移転

富士通陸上競技部は1990年に川崎工場（現 Fujitsu TechnologyPark）にて発足、日常的な練習は近隣の等々力陸上競技場（現 Uvance とどろきスタジアム by Fujitsu）や多摩川河川敷等で行い、合宿は千葉県等で実施していたが、1997年に練習環境のさらなる充実を図るべく、千葉県千葉市に拠点を移していた。

この度、Fujitsu Sportsの運動部集約による価値向上への取り組み強化を目的とし、川崎市に移転を決定。同市はFujitsu Sportsの本拠地としてアメリカンフットボール部と女子バスケットボール部が「かわさきスポーツパートナー」として認定され、すでに20年以上にもわたって、競技普及やスポーツ振興に貢献している。

陸上競技部も、これまで千葉県や千葉市をはじめ、所属選手の出身地などでのスポーツ教室の実績があり、2026年度からは新たに「スポーツのまち・かわさき」に根付き、地域・ファンの方々にポジティブな変化をもたらすよう取り組んでいく。

川崎市中原区に陸上競技部
専用寮を新設

単なる居住の場ではなく、選手1人ひとりが日々のトレーニングに集中し、自身と向き合いながら成長していくための拠点となることを目指して整備しました。本寮を拠点に、今後も陸上界のみならず、社会や企業をリードできる人材を継続的に輩出していきます。

① 世界で戦うための強化支援

寮内には低酸素ルームをはじめとした最新鋭機器を導入したトレーニングルームを完備。富士通のテクノロジーを活用した動作分析システムも取り入れ、科学的根拠に基づくトレーニング環境を導入。

② 安らぎと回復の空間

休息や回復も強化に不可欠な要素である思想のもと、トレーニングルームや高酸素室など、充実したケア環境を用意。さらに大浴場には水風呂やサウナも完備。併せて食環境にも十分配慮し、選手1人ひとりのコンディションやデータを踏まえながら、最適な食事を提供。

③ 社会人としての成長支援

競技力向上に加え社会人としての成長も重視し、仕事に取り組める環境として寮内にテレワークルームを用意。



トレーニングルーム



大浴場



※画像は建設中のものです。

食堂

TRACK & FIELD TEAM ATHLETE & STAFF FILE

プロフィールの
詳細は公式サイトで
ご覧いただけます。



富士通陸上競技部 選手・スタッフ名鑑



ATHLETE'S PROFILE

PROFILE: ①生年月日 ②出身③出身校 ④所属 マーク一覧: NEW = 新加入選手 CAP = キャプテン 掲載内容は2026年4月20日現在の情報です。

110mH CAP

石川 周平

Shuhei Ishikawa

110mH
13秒36
(日本歴代9位)
60mH 7秒57
(日本歴代3位)



- ① 1995年05月29日
- ② 岩手県
- ③ 筑波大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

400m

佐藤 拳太郎

Kentaro Sato

200m 20秒63
300m 32秒37
400m 44秒77
(日本歴代2位)
4×400mリレー
2分58秒33
(アジア記録)



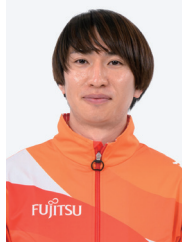
- ① 1994年11月16日
- ② 埼玉県
- ③ 城西大学
- ④ Employee Success 本部

400mH

豊田 将樹

Masaki Toyoda

400mH
48秒87



- ① 1998年01月17日
- ② 鹿児島県
- ③ 法政大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

100mH

田中 佑美

Yumi Tanaka

100mH
12秒80
(日本歴代4位)
60mH 8秒00
(日本記録)



- ① 1998年12月15日
- ② 大阪府
- ③ 立命館大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

400m

中島 佑気ジョセフ

Yuki Joseph Nakajima

200m 20秒89
400m 44秒44
(日本記録)
4×400mリレー
2分58秒33
(アジア記録)



- ① 2002年03月30日
- ② 東京都
- ③ 東洋大学
- ④ Employee Success 本部

400mH

井之上 駿太

Shunta Inoue

男子400mH
48秒46
(日本歴代7位)



- ① 2002年07月04日
- ② 大阪府
- ③ 法政大学
- ④ ナショナルセキュリティ事業本部

400mH

山本 亜美

Ami Yamamoto

400mH
56秒06
(日本歴代5位)



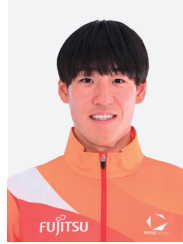
- ① 2002年04月19日
- ② 滋賀県
- ③ 立命館大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

400mH NEW

小川 大輝

Daiki Ogawa

400mH
48秒61



- ① 2003年04月17日
- ② 愛知県
- ③ 東洋大学

競歩 NEW

柳井 綾音

Ayane Yanai

20kmW
1時間29分44秒
ハーフマソンW
1時間35分57秒



- ① 2003年12月24日
- ② 福岡県
- ③ 立命館大学

長距離 マラソン CAP

浦野 雄平

Yuhei Urano

5000m
13分29秒37
10000m
28分05秒37
ハーフマソン
1時間02分02秒
マラソン
2時間06分23秒



- ① 1997年11月01日
- ② 富山県
- ③ 國學院大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

横手 健

Ken Yokote

5000m
13分31秒35
10000m
27分58秒40
ハーフマソン
1時間01分18秒



- ① 1993年04月27日
- ② 栃木県
- ③ 明治大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

潰滝 大記

Hironori Tsuetaki

3000m
8分01秒45
3000mSC
8分25秒49
5000m
13分39秒00
10000m
27分49秒80



- ① 1993年05月08日
- ② 和歌山県
- ③ 中央学院大学
- ④ 総務本部

長距離

松枝 博輝

Hiroki Matsueda

1500m
3分38秒12
5000m
13分23秒64
10000m
27分42秒73



- ① 1993年05月20日
- ② 神奈川県
- ③ 順天堂大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

ベナード キメリ

Benard Kimeli

5000m
13分16秒61
10000m
27分20秒84
10km
27分10秒
ハーフマソン
59分07秒



- ① 1995年09月10日
- ② ケニア
- ③ Kimoning High School
- ④ Employee Success 本部

長距離

塩尻 和也

Kazuya Shiojiri

3000m 7分46秒11
(日本歴代8位)
3000mSC
8分27秒25
5000m
13分13秒59
10000m
27分09秒80
(日本歴代2位)



- ① 1996年11月08日
- ② 群馬県
- ③ 順天堂大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

坂東 悠汰

Yuta Bando

1500m
3分37秒99
5000m
13分18秒49
10000m
27分51秒10



- ① 1996年11月21日
- ② 兵庫県
- ③ 法政大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

棒高跳

江島 雅紀

Masaki Ejima

棒高跳 5m71
(日本歴代3位)



- ① 1999年03月06日
- ② 神奈川県
- ③ 日本大学
- ④ 総務本部

走幅跳

橋岡 優輝

Yuki Hashioka

走幅跳 8m36
(日本歴代2位)



- ① 1999年01月23日
- ② 埼玉県
- ③ 日本大学
- ④ 広報 IR・AR 室

パラ100m パラ走幅跳

兎澤 朋美

Tomomi Tozawa

T63 100m
15秒55
(アジア記録)
T63 走幅跳
4m88
(アジア記録)



- ① 1999年01月14日
- ② 茨城県
- ③ 日本体育大学
- ④ 総務本部

競歩

住所 大翔

Hiroto Jusho

5000mW
18分57秒24
10000mW
38分30秒37
20kmW
1時間18分46秒
ハーフマソンW
1時間22分46秒



- ① 2000年01月11日
- ② 兵庫県
- ③ 順天堂大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

青柿 響

Hibiki Aogaki

5000m
13分47秒77
10000m
28分20秒42
ハーフマソン
1時間02分44秒



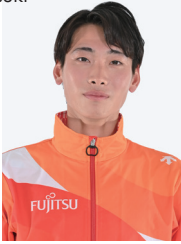
- ① 2002年03月20日
- ② 埼玉県
- ③ 駒澤大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

高槻 芳照

Yoshiteru Takatsuki

5000m
13分49秒07
10000m
28分11秒99
ハーフマソン
1時間02分19秒



- ① 2001年05月18日
- ② 福島県
- ③ 東京農業大学
- ④ FJJ) Public & Education 事業本部

長距離

篠原 倖太郎

Kotaro Shinohara

3000m
7分48秒59
5000m
13分15秒70
10000m
27分35秒05
ハーフマソン
59分30秒
(日本歴代2位)



- ① 2002年09月03日
- ② 千葉県
- ③ 駒澤大学
- ④ Banking & Securities 事業本部

長距離

鈴木 康也

Koya Suzuki

5000m
13分59秒65
10000m
28分37秒68
ハーフマソン
1時間02分06秒



- ① 2002年11月27日
- ② 千葉県
- ③ 麗澤大学
- ④ FJJ) ヘルスケア事業本部

長距離

平林 樹

Itsuki Hirabayashi

5000m
13分36秒56
10000m
28分03秒13
ハーフマラソン
1時間02分49秒



① 2002年12月08日
② 東京都
③ 城西大学
④ FJJ AI&TECH本部

長距離 NEW

伊藤 蒼唯

Aoi Ito

5000m
13分32秒88
10000m
28分28秒15
ハーフマラソン
1時間01分16秒



① 2004年01月12日
② 島根県
③ 駒澤大学

長距離 NEW

上原 琉翔

Ryuto Uehara

5000m
13分45秒58
10000m
28分16秒76
ハーフマラソン
1時間00分30秒



① 2003年05月05日
② 沖縄県
③ 國學院大学

STAFF PROFILE



部長

林 恒雄

Tsuneo Hayashi



後援会長

国分 出

Iduru Kokubu



ゼネラルマネージャー

笹野 浩志

Hiroshi Sasano



総監督

高橋 健一

Kenichi Takahashi



監督兼長距離ブロック長

三代 直樹

Naoki Mishiro



事務局長

吉川 三男

Mitsuo Yoshikawa



長距離ブロックコーチ

井野 洋

Hiroshi Ino



長距離ブロックコーチ

尾崎 貴宏

Takahiro Ozaki



競歩ブロック長

今村 文男

Fumio Imamura



競歩ブロックコーチ

森岡 紘一郎

Koichiro Morioka



一般種目ブロック長

高平 慎士

Shinji Takahira



マネージャー

並木 大介

Daisuke Namiki



事務局

高野 善輝

Yoshiteru Takano



事務局

土井 友里永

Yurie Doi



エグゼクティブアドバイザー
兼長距離コーチ

福嶋 正

Tadashi Fukushima

顧問

肥塚 雅博

Masahiro Koezuka

アドバイザー

堀籠 佳宏

Yoshihiro Horigome

一般種目ブロック長補佐

田野中 輔

Tasuku Tanonaka

CLOSE UP INTERVIEW

川崎に移転する今季、
より求める“富士通らしさ”

DIRECTOR 監督兼長距離ブロック長

三代 直樹

Naoki Mishiro

これまで長距離ブロック長を務めてきた三代直樹は、今シーズンより、高橋健一監督のあとを受け継ぎ、陸上競技部の監督に就任した。陸上競技部も川崎市に拠点を移して活動に臨む今季、2027年の世界選手権、その先にあるロサンゼルスに向けて世界に挑戦できる選手を育てていく。

アマチュアではあるが
陸上競技に向かう姿勢はプロ

—— 2025年度シーズンまで務めた長距離ブロック長からこの春、監督に就任されました。陸上競技部全体を統括する立場となりましたが、どんなチームを目指しますか。「多くの企業が陸上チームを持っていますが、駅伝、マラソンだけでなく、一般種目や競歩まで陸上競技のすべての種目に取り組んでいることが私たちの一番の特徴です。それぞれのブロックに分かれて活動するなかでも、1つのチームという意識を持ち、他種目の活躍から刺激を受け、ポジティブな自分の活力に変えていけるチームにしたいと考えています。また私たちはアマチュアではありますが、陸上競技に向かう姿勢はプロであるべきです。楽しく競技に取り組みつつも、妥協なく自分自身を高め、戦う集団にしたいとも考えています」—— その2つのチーム作りのビジョン実現に対し、具体的にはどんな施策を考えていますか。

「今も陸上競技部全体として月に1回、オンラインミーティングをしています。全員が1カ所に集まってトレーニングする機会を1年に1回でもいいので作りたいと考えています。そこで対面のミーティングを

したり、同じチームの仲間の練習を間近で見たりすれば、コミュニケーションも深まり、チームへの帰属意識や一体感もより強くなるでしょう。また私が一般種目や競歩の選手の練習の場に足を運ぶことも、監督として全体を統括するために必要だと考えています。私自身、今後も引き続き、長距離ブロックの指導がメインにはなりますが、一般種目の高平慎士ブロック長や競歩の今村文男ブロック長と連携しながら、ブロックの垣根を越えた交流をしていくつもりです。また選手はそれぞれに目標を立て、競技に取り組んでいます。しかしその目標をずっと意識し続けることは難しく、ときには取り組みに甘さが出ることもあります。そのようなときに目標を思い出させ、そこへの向かい方をアドバイスしていくことで、選手の意識を高いレベルで維持していければと考えています」—— 高橋健一前監督や福嶋正前総監督から引き継ぐべき部分はありますか？ また三代直樹監督は立場が変わったことで、今後どのように指導のスタンスを変えていきますか。「高橋の自主性を大事に見守る所やコミュニケーションを積

極的に取る福嶋の良い部分は踏襲していきます。そして私自身はこれまで以上に熱意を持って接すること、上手くチームを率いるという意識よりもこれまで以上に近い距離間で選手一人ひとりと伴走していくことで、2つめのビジョンで示した競技へのプロ意識を徹底していくつもりです。そのためには私自身がアンテナを高く張って、新たな練習メソッドや世界のトレンドを学び、指導者として成長し続ける必要がありますし、選手1人ひとりにも成長してもらいたいという熱い気持ちを持つことで、選手とのコミュニケーションをより活性化させていきたいです」

08

Fujitsu Sports Season Book 09

「日本一になるだけで満足せず、 “世界で戦う”ことを目指しながら 競技を行うところが、 我々らしさであり、創部以来の伝統」

— 三代 直樹監督

— 三代監督が考える“富士通らしさ”とはどんな点になりますか。またそれを今後、どのように伸長させていきますか。

「日本一になるだけで満足せず、“世界で戦う”ことを目指しながら競技を行うところが、我々らしさであり、創部以来の伝統です。今の時点で、世界で戦うことが明確な目標となっている選手もいれば、まだそのレベルにない選手もいます。後者の選手たちにも一歩ずつ成長を図っていき、チーム全員がそうした目標が現実的なものになることを目指します。そのため、チームの底上げを進めることが、我々らしさにつながると考えています」

— 2025年は東京で世界選手権が開催され、富士通からは7名が日本代表に選出されました。なかでも中島佑気ジョセフ選手は男子400m 予選で日本記録を樹立し、決勝でも6位に入りました。“世界で戦う”という富士通陸上競技部のモットーを体現したのではないのでしょうか。

「はい。どの種目でも世界のレベルは上がっていますが、それでも日本代表になることがゴールになってはいけません。世界の舞



中島佑気ジョセフ

台に立ち、そこで自分の最高の力を発揮し、ラウンドを重ねて決勝で競い合うという姿を中島は東京の地で見せました。これはまさに当部のモットーを体現するものであり、他の選手もその姿に大きな刺激を受けました。今後はこうした選手が1人でも多く出てくることを目指していきます」

フロンティアーズやレッドウェーブと協働することで生まれるシナジー

— 有望な新人選手も4名が入部しました。彼らに期待することは何でしょうか。

「数ある企業のなかから富士通を選んだ以上、やはり富士通らしく世界を目指してほしいですし、それができる選手たちです。どの選手も高い意識と志を持っていますので、入社時の初心を忘れず、ここで競技人生を完全燃焼してもらえたらと思います」

— 今年度から陸上競技部は拠点を千葉市から川崎市に移しました。地域や社員とどのように関わっていきますか。

「富士通の強化運動部のなかで、陸上競技部だけが、これまで千葉市に拠点を置いていましたが、今後はアメフト部のフロンティアーズや女子バスケットボール部のレッドウェーブと協働することで、Fujitsu Sportsとしてのシナジーを生むことができます。先にあげた2つのチームは川崎市とかわさきスポーツパートナーシップを結んでいますし、今後は様々な切り口で地域貢献ができることが楽しみです。そして陸上競技部単体としては富士通の名を冠にしたレースや、青少年育成のアカデミーなども将来的には実現したいです。また寮も本店 Fujitsu Technology Park 近くに移転しました。選手が出社する回数も増え、社員の皆さんと接する機会もより増していくことでしょう。個人的には陸上競技部のOB・OGにどんどん寮に来ていただき、引退後の働き方などを選手に伝えてほしいと考えています」



— 最後に2026年度シーズンの目標を教えてください。

「今年は9月に愛知県の名古屋市でアジア選手権が開催されます。“世界で戦う”というモットーを掲げている以上、私たちはここでも結果を求め、来年の世界選手権やその翌年にロサンゼルスで行われる大会へつなげていきます。そのため、アジアでの大会には最低5名は代表に送り込み、メダルを争う姿を見せてほしいと考えています。またニューイヤー駅伝も5大会、優勝から遠ざかっています。私自身が長距離出身ですので、この優勝奪還は何としても実現したいところです。川崎に移転した今季は、より富士通らしさを発揮していきたいと考えています」

取材・文／加藤康博

PROFILE

三代 直樹 Naoki Mishiro

1977年3月16日生まれ。島根県出身。順天堂大学で4年間を通じて箱根駅伝で活躍。4年時には総合優勝に貢献した。1999年に富士通入社。2008年に現役引退し、広報IR室配属。2015年より陸上競技部長距離ブロックコーチ、長距離ブロック長を経て2026年5月に同部監督に就任。



インタビューは
こちらにも
掲載しています

INTERVIEW

世界のファイナルでの経験が 見据える舞台をぐっと上げる

中島 佑気ジョセフ

Yuki Joseph Nakajima

2025年は世界選手権（東京）の男子400m予選で、44秒44の日本新記録をマークした。この種目で日本勢34年ぶりの決勝進出を果たし、日本勢過去最高の6位入賞を果たした。「予選で44秒台を出せて、『同じようなリズムでいけば準決勝も戦える』と、良いイメージを持てたのが大きかったです。その結果、準決勝で周りのレベルが上がるなかでも自分の力をうまく発揮できると分かり、精神的な負担が軽くなりました。ただ、決勝のあとはやり切った感じはなくて、悔しさが一番大きかったです。大会前から、メダルを狙いたいという気持ちはありました」

— シーズン序盤から順調だったわけではな

い。肉離れや肺炎で、練習ができない時期も続いていた。

「春先はかなり苦労しました。スピード練習も距離を踏むこともできなかったのですが、『1本の質』と『レース戦略』に集中しました。前半のスピードにこだわらず、後半で勝負する戦略を考えていました」

— 世界選手権の反響は大きく、メディアへの露出が増えた。

「ファッション誌の撮影などは新鮮でした。メディアで自分の伝えたいことを発信するのは大事だと思っています」

インタビュー
全文はこちらから



春には1カ月ほどカリフォルニア大学ロサンゼルス校で練習し、新シーズンに臨む。「世界陸上でできた動きを身体に定着させることを最優先にしてきました。その上で、去年できなかったジャンプトレーニングやスピード強化を採り入れながら、自分の動きがどう変わるかを俯瞰的に見えています。2026年の一番の目標は、9月にある世界アルティメット選手権出場。その経験が、来年以降の世界陸上などにつながると思います」

取材・文＝加藤 秀彬／朝日新聞社

痛みを抱えながら走った世界選手権 これからも気楽に楽しく乗り越えていく

100mH

田中 佑美

Yumi Tanaka

2025年シーズンは7月の日本選手権で初優勝した一方、世界選手権（東京）では予選敗退。喜びと悔しさの両方を味わった。「世界選手権の参加標準記録（12秒73）を切ることを最低限の目標として入ったシーズンでした。結果として、日本選手権で勝負に勝てたことは大きかった一方、記録がついてこなかった。日本選手権決勝の朝からアキレス腱に痛みが出て、世界選手権にも出られるか分からない状況でした。世界選手権は試合の1週間前くらいに『もうやるしかない』と思い、久しぶりにスパイクを履いてハードルを跳び、とりえずスタートラインに立つことだけを確認してレースに向かいました」

— 満身創痍で臨んだ世界選手権では予選で13秒05の6着。ケガの影響で自己記録に

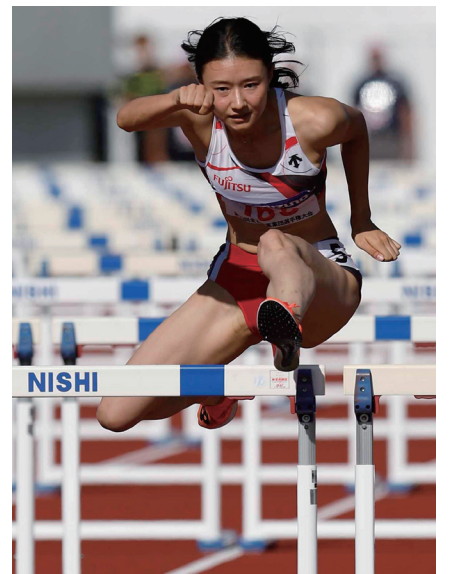
は及ばなかったが、収穫もあったという。

「思ったより走れたことと、悔しいなと思ったことは良かったと思います。私はもともと、東京だからとか、国際大会だからとか、そういうところが大事な選手ではない。東京の世界選手権が盛り上がったというのは終わってから客観的に見て気づいた感じです」

— この冬は、アキレス腱の痛みに向き合う日々が続いた。「以前に動きを変えて3～4年間痛みがなかったのに、またケガをしてしまいました。今は、当時とは違う方向で何かできないかというアプローチを継続中です」

— 9月に愛知県でのアジア大会が控える今シーズン、目指すものは何か。「目標は毎年あってないような感じなので、ちょっと

インタビュー
全文はこちらから



でも速くというところは変わらず、そのときできる手札を上手に使っていければなと思います。わかりやすい大会として、愛知県のアジア大会が一つある。自分はあまり記録が出ていないので、大会出場を狙うなかで記録を狙っていきたいです。ただ、シーズンの目標は気楽に楽しく乗り越えられたらと思います」

取材・文＝加藤 秀彬／朝日新聞社

競技をやめることも考えた
悔しい世界選手権を経て思う
跳躍の完成形を目指す闘志

走幅跳
橋岡 優輝 Yuki Hashioka

昨年の世界選手権（東京）で、男子走幅跳の橋岡優輝は悔しい結果となった。これまで、世界選手権と主要な国際大会で入賞歴がある。しかし、2024年のパリに続いて、2年連続の予選敗退という屈辱だった。「昨年はトレーニングも順調にできていました。2022年秋からアメリカに渡ってやってきた、スプリンター的な動きが身体に馴染んできたので、次は跳躍にまともていく作業を進めていたんです。感覚的にも良くなっていたのですが、その過程でケガをしてしまいました。今思えば、走るほうにばかり傾き過ぎていたよう思います。東

インタビュー
全文はこちらから



京での世界選手権では脚の不安が、そのままパフォーマンスに響いてしまいました。1本目も普段しないような助走のリズムを崩してしまい、2本目にファウルした後は、『3本目でファウルしたらどうしよう』と、いつもなら考えないようなメンタルになりました。3回目も無理矢理跳びに行ったところでケガをしてしまいました。出ていなかったようなもの、だと思っほですし、陸上をやめようかと思うほど悔しかったです」

しばらくは情報も遮断して、世界選手権の結果も見ていなかったという。だが、オフ期間を経て、少しずつ気持ちも前を向い

た。今は、次のシーズンに向けて、新たな挑戦を始めている。

「やめるのは簡単ですが、負けず嫌いなのでこのまま逃げたくありません。ライバルたちを全員倒したいと思っています。冬季練習では基礎に立ち返って、ドリルから見直して作り上げました。アメリカで取り組んできたことが、ここから先に結びついてくるとしています。今年は愛知でアジア大会がありますが、私は次の国際大会に向けて、跳躍の完成形に近づけるようじっくりと練習を積む1年にしたいと思っています」

取材・文＝向永 拓史／月刊陸上競技

2028年への準備期間となる今季、
国内で一番を狙いにいく

競歩
住所 大翔 Hiroto Jusho

2025年は上々のスタートを切った。9月に東京で行われる世界選手権の代表選考会となる2月の日本選手権20km競歩を見据えて元旦競歩大会に出場し、1時間19分39秒の大会新記録で優勝。ただ、肝心の日本選手権は途中棄権に終わった。前夜からの発熱が響いた。レースは山西利和が世界新記録で優勝したことで終始ハイペースで進み、「体調不良がなかったとしても戦えていたかどうか」と振り返る。

3月の全日本競歩能美大会は2位に入ったが、日本選手権の上位者が選考で優先されるため世界選手権の代表入りは逃した。東京開催となった世界選手権では同学年の藤井菜々子が女子20km競歩で銅メダル

インタビュー
全文はこちらから



を獲得。「同級生がこんなにも成長しているんだなと思って、置いていかれているような気分」になった。2学年下の吉川絢斗が男子20km競歩で7位に入ったことも刺激になり、「もう少しちゃんとやらないと、とムチが入った」と語る。

もっとも、自身も世界での実績はある。2022年にアメリカ・オレゴン州で行われた世界選手権は山西、池田向希のワンツーフィニッシュの陰に隠れて目立たなかったものの、8位入賞。国内と環境が違っても「ちゃんと食べられたり、時差もそんなに気にすることなく、良いパフォーマンスが勝手にできた」という。

目下、最大のターゲットは2028年にロ

サンゼルスで行われる国際大会。オレゴンでの世界選手権で入賞したことから「アメリカは得意な舞台」と自信を示す。そこに向けての準備期間となる2026年は、どのようなことを目標に取り組むのか。「国内の（主要な）レースで長いこと優勝ができていないので、まずは国内で一番を取りにいけたらなと思っています」

次はトラック、マラソンで
日本代表を目指す

長距離
小澤 大輝 Daiki Ozawa

2025年は5000m、10000mで初の日本選手権出場を果たすも、日本最高峰の舞台でその洗礼を浴びた。

「10000mでは上位争いに加わることができず、5000mで予選敗退と力不足を痛感しました。富士通に入ってから少しずつタイムは上がってきましたが、こうした競い合うレースで勝負ができず、課題が明確になったと受け止めています」

2026年1月には世界クロスカントリー選手権への出場も果たした。日本代表のユニフォームを着て走った経験は、大きな刺激となったと話す。

「世界のトップ選手が目の前にいて、独特な雰囲気のほか、身が引き締まる思いで走

インタビュー
全文はこちらから



りました。そして、もっと上を目指したいという意欲が生まれました。初めて日本代表として世界に出たことで、自分の競技人生もいよいよ最終章に入ってきたと感じています。次はトラック、そしてマラソンで日本代表を目指します」

昨年は入社以来、初の東日本実業団駅伝出場機会をつかんだが、ニューイヤー駅伝は故障のためメンバー入りを逃した。2026年は富士通4年目のシーズンになる。チーム内での責任が大きくなったことも自覚している。

「監督やコーチからは“小澤たちの代が強くならないと富士通が強くならない”と言われていますので、今年の世界選手権は出るだけでなく、上位で戦い、ニューイヤー駅伝でもメンバーとしてチームに貢献できるようにチャレンジを続けます。自覚と責任感を持ってチームを盛り上げていければと考えています」

座右の銘は「攻めて粘れ」。レースでは積極果敢に走り、最後まで粘り切る姿を見せるつもりだ。

取材・文＝加藤 康博

スピードを伸ばすことで
可能性は広がる
目指すは全レースでの
ハイレベルな結果

長距離
篠原 倖太郎 Kotaro Shinohara



富士通1年目はニューイヤー駅伝3区で区間賞、区間新記録樹立と、鮮烈な走りを見せた。

「大学時代、正月は毎年箱根駅伝で20kmを超える距離を走っていましたので、それが15kmまで短くなり、シンプルに走りやすかったです。この15km前後の距離は本当に自分に合っていると思います。ただ、富士通の名前を背負って走る新鮮さがある一方、その重みも感じていて、富士通の名を汚さないように、結果を残さなければという責任感を持って走りました」

駒澤大学時代から世界を目指してきた逸材だ。世界選手権（東京）の出場は果たせなかったが、富士通の環境を活かして、その目標を見据える。

インタビュー
全文はこちらから



「トラックで世界を目指しているの、練習もトラック向けのものにもっと振り切っていこうと考えるようになりました。ただ別の発見もあって、夏に富士通のマラソン合宿に参加させていただき、その練習のレベルの高さや量に圧倒されました。トラックで世界を目指すうえでスピードを維持するためのスタミナは必要なので、富士通の環境を活かし、走行距離もしっかり確保していこうと思っています」

目指す目標は5000mで12分台、10000mで26分台という日本人が成し遂げていない領域だ。

「スピードを伸ばすことでマラソンの可能性が広がると思うので、当面はトラックに集中します。今年はアジア大会がありますので、その出場を狙うことが第一ですが、自己ベストが更新できそうな手応えもあります。駅伝でもチームの順位を上げる走りを目指し、出るレースすべてでハイレベルな結果を残していきたいです」

次代の富士通のエースとして、トラック、駅伝で昨年以上の結果を求める。

取材・文＝加藤 康博

大学時代に2つの世界大会を経験 憧れの“富士通”でメダル獲得を目指す

400mH NEW

小川 大輝 Daiki Ogawa

2024年のパリと2025年の東京。東洋大学時代に2つの世界大会を経験した。そんな実績十分なハードラーにとって、富士通のユニフォームには特別な思い入れがある。「中学生で陸上を始めたころから日本選手権などを見ていて、白い富士通のユニフォームが印象に残っていました。憧れていたチームで、東洋大の先輩であるウォルシュ ジュリアンさんや中島佑気ジョセフさんが所属していたこともあり、『富士通の一員になりたい』と思っていました」

豊橋南高校時代に51秒台だった400mハードルのタイムは、大学で48秒61まで更新した。日本選手権を2度制するなど飛躍した要因は、東洋大の練習環境だったと分析している。「尊敬する2人と質が高

すぎるぐらいの練習をしたことで、意識も高くなりました。400mにはあまり出ていないですが、1秒ぐらいタイムは上がっていると思います」。

ただ、2つの世界大会ではどちらも予選敗退だった。自己記録を出せば準決勝に進出できたなか、自分のレースをできなかった。「試合前の雰囲気から独特で、気持ちが高ぶり、前半から突っ込みたくなるような状態になりました。海外選手の体格や言語の違いにも圧倒されます。大会から帰るバスのなかでは他種目の選手たちと『何で普段通りのレースができないのか』と話しました。東洋大の土江寛裕コーチからは『経験を積むか、何も考えずに走れるようなメンタルを持つしかない』とアドバイスをもらいました」

今年は9月に地元・愛知でアジア大会が

インタビュー
全文はこちらから



控えている。富士通の一員として、国際舞台で結果を残すことが目標だ。「会場のパロマ瑞穂スタジアムは中学時代から入っていたので、思い入れがあります。48秒台の前半を出して、メダルを取りたいです」

取材・文＝加藤 秀彬／朝日新聞社

大学時代に駅伝でメンタルを強化 クレバーかつ強気な走りで存在感を発揮する

長距離 NEW

伊藤 蒼唯 Aoi Ito

駒澤大学では1年時から学生三大駅伝を走り、チームの3冠達成に貢献。4年間を通じて駅伝は9回出走し、区間賞2回、区間2位が6回と、ハイレベルな戦績を残した。「飛び抜けた強さは発揮できませんでしたが、4年間を通じ、安定した結果を残せたことが自分の強みだと思っています。上級生になるに連れ、期待されるものも大きくなり、そのなかで動じずに走れるメンタル面の強さも身につきました」

なかでも箱根駅伝6区は3回走り、区間賞も獲得した。それだけに下りが得意の選手というイメージが強いが、平坦区間での強さも折り紙付きだ。大学4年時の全日本大学駅伝5区では終始ハイペースを貫いてチームをトップに押し上げ、大会 MVP を

手にしている。

「序盤からハイペースで入って、最後まで耐え抜くスタイルは実業団でも変えたくないと思っています。レベルの高いニューイヤースタイルになれば、なおさらそうした強さが求められますし、自分の良さもさらに磨かれるはずです」

富士通では、まずはトラックと駅伝に注力し、将来的にはマラソン挑戦も視野に入れる。

「日本を代表するランナーになることが目標ですが、いつ、どの種目で日本代表を勝ち取るかといった具体的なイメージはまだできていないんです。これまで種目を絞って競技に取り組んだことがないので、富士通ではまず自分の得意種目を見つけて、明

インタビュー
全文はこちらから



確に定まったらそれを突き詰めて世界に出ていきたいと考えています」

その可能性は無限大。クレバーかつ強気な走りです。1年目から存在感を発揮するつもりだ。

取材・文＝加藤 康博

2月の日本選手権で見た 大学での集大成 第一人者の背中を追って叩いた門

競歩 NEW

柳井 綾音 Ayane Yanai

立命館大学4年生として、学生生活の締めくくりとなる2025年は、「4年間で一番苦しいシーズン」だった。自己ベストを更新できず、「成長を感じられないときが多かった」のは「心と身体が一致できていなかったのが原因」と振り返る。

心身のバランスがなかなか取れないなかでも代表権を獲得し、出場した9月の世界選手権女子20km競歩は37位。

「一番練習をしていた1年だったので、結果を残せなかったのはすごく悔しい」

ただ、2位に入った2026年2月の日本選手権・ハーフマラソン競歩は「4年間で一番いいレース」だった。長く日本の女子競歩界を牽引してきた岡田久美子が引退

し、2025年に東京で開催された世界選手権女子20km競歩銅メダルの藤井菜々子も不在のなか、梅野倭子に先着された悔しさはあるものの、「毎年、日本選手権は苦戦していた。今回はペースの落ち幅を縮められたのと、自分でペースをつくれたのが良かった」と手応えを語る。

今春、富士通に入社した。大学時代は自ら練習メニューを作り、ポイント練習は週に2回程度だったが、「1週間に3～4回ポイント練習をやるのが当たり前」と知った。今村文男競歩ブロック長と森岡紘一郎コーチからは、右肩が下がる癖を修正する動きづくりなどを教わっているという。

富士通に進んだ決め手の一つに、所属選手だった岡田の存在があった。実力もさることながら「謙虚で人間性が高い」第一人者を追って門を叩いたのは自然なことだったのだろう。「いろんな種目で、世界で戦っている方がいて、お互いに高め合える存在がいるチームはなかなかないと思う。恵まれた環境で競技ができることがすごく幸せだと思うので、その気持ちを忘れずに富士通で頑張っていきたいと思います」

インタビュー
全文はこちらから



タフさが自分のストロングポイント 目指すのはチームを勝たせる選手

長距離 NEW

上原 琉翔 Ryuto Uehara

國學院大学では3年時に全日本大学駅伝、4年時に出雲駅伝で優勝のフィニッシュテープを切り、箱根駅伝も4年連続で出場。またハーフマラソンでは、ユニバーシティゲームズ日本代表として銅メダルを獲得した経歴を持つ。

「高校時代は1500m、5000mでインターハイ決勝に行けたので、トラックのスピードタイプと自分では考えていました。ただ、大学では最大の目標が箱根駅伝優勝だったことに加え、前田康弘監督から“ロードのほうに向いている”と言われ、そこに向けた強化が中心となりました。今ははっきりとロードが得意と言えます」

その箱根駅伝では一度も優勝を手にしなかった。その悔しさは富士通で晴らしたいと話す。「これからはニューイヤースタイルでの優勝を目指します。タフさが自分のストロングポイントです。ニューイヤースタイルは風が強い中で行われますが、向かい風でも力を発揮できます。エース区間である2区で勝負し、チームを勝たせる選手になりたいと考えています」

周囲に流されることなく、自分の信念を貫く気持ちの強さが持ち味。視線の先には大きな目標を定めている。

「2028年にロサンゼルスで行われる国際大会で、マラソンで勝負することが今の目標です。自分は練習も質の高いものができるので、ボリューム的にも多くこなすことができます。最終的に目指すのはマラソンでの日本記録です。富士通では過去にそれを成し遂げた選手もいるので、自分もそこに辿り着けるようがんばります」

沖縄県出身ランナーとしての誇りを胸に、マラソンランナーとして果てなき高みへと走り出す。

取材・文＝加藤 康博



インタビュー
全文はこちらから



FRONTIERS

アメリカンフットボール部 富士通フロンティアーズ



1984年、富士通グループのアメリカンフットボール経験者が集まり、同好会として発足。翌年の1985年、「アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に」をスローガンに、日本のアメリカンフットボール界の開拓者となることを誓い、「FRONTIERS」と命名し、正式にスタート。

2014年、創部30年目にXリーグ王者を決める「JAPAN X BOWL」で初めて勝利し、社会人日本一に輝く。同シーズン、初出場となった日本選手権「RICE BOWL」で、学生日本一チーム相手に勝利を収め、「日本一」の栄冠を獲得。2016シーズンに2度目の日本一を達成すると以降2018シーズンまでRICE BOWL 3連覇を達成。翌2019シーズンは史上最多タイの4連覇、さらに2021-2023シーズンにも3連覇を達成

しRICEBOWLでの優勝は8回にのぼる（史上最多タイ）。

チームは活動拠点としている川崎市の「かわさきスポーツパートナー」として地域貢献活動にも率先して取り組みつつ、常勝チームとしても富士通グループを盛り上げるべく、挑み続けている。



ヘッドコーチ
山本 洋

創部

1984年

日本選手権
RICEBOWL 優勝

8回

部員

72名

2026
シーズンスローガン

覚悟

チーム公式
マスコット
フロンティ



今年から新設「Xリーグプレミア」

一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会（NFA）のトップリーグとして1996年に発足したXリーグは、発足30周年を迎える2025年を区切りに2050年を見据えたリーグビジョンを策定。今年からXリーグの上位カンファレンスとして「Xリーグプレミア」が新設される。



レギュラーシーズンはサマーブレイクを挟んで行う通年制で、7カ月にわたって計11節。対戦方式は11チームの総当たり戦で、終了後の成績上位6チームがプレーオフに出場し、アメリカンフットボール日本選手権ライスボウル出場を懸けてトーナメント戦を戦う。

節	開催日時	対戦相手	会場
第1節	2026年5月10日（日）14:00～	東京ガスクリエイターズ	富士通スタジアム川崎
第2節	2026年5月24日（日）11:30～	パナソニックインパルス	MK タクシーフィールド（大阪）
第3節	2026年6月20日（土）12:00～	富士フイルム海老名ミネルヴァ AFC	富士通スタジアム川崎
第4節	2026年7月4日（土）17:00（予定）	オービックシーガルズ	第一カッターフィールド（秋津サッカー場）
Summer Brake			
第5節	2026年8月30日（日）15:00（予定）	IBM BIG BLUE	青葉の森スポーツプラザ
第6節	2026年9月13日（日）14:00～	SEKISUI チャレンジャーズ	富士通スタジアム川崎（予定）
第7節	2026年9月23日（水・祝）11:00（予定）	OrientalBio シルバースター	富士通スタジアム川崎（予定）
第8節	2026年10月4日（日）14:00～	オール三菱ライオンズ	富士通スタジアム川崎（予定）
第9節	BYE WEEK		
第10節	2026年11月3日（火・祝）11:00～	ノジマ相模原ライズ	富士通スタジアム川崎（予定）
第11節	2026年11月15日（日）K.O. 時間未定	エレコム神戸ファイニーズ	MK タクシーフィールド（大阪）



FRONTIERS

FRONTIERS PLAYER & STAFF FILE

プロフィールの詳細は公式サイトでご覧いただけます。



富士通アメリカンフットボール部
フロンティアーズ
選手・スタッフ名鑑

PROFILE: ①生年月日/②身長/体重/③出身/④出身校/⑤所属 マーク一覧: **NEW** = 新加入選手/ **CAP** = 主将/ **VICE** = 副将

※掲載内容は2026年4月20日現在の情報です。

PLAYER'S PROFILE

タイトエンド

#0 TE
ダニエル
バーカー
Daniel Barker

NEW

① 1999年09月23日
② 193cm / 113kg
③ アメリカ
④ アイノイ大学
⑤ Employee Success
本部(競技専任)



ディフェンスバック

#1 DB
渡辺 裕也
Yuya Watanabe

① 1998年12月11日
② 180cm / 90kg
③ 埼玉県
④ 法政大学
⑤ プロセス製造事業本部



クォーターバック

#2 QB
竹田 剛
Go Takeda

NEW

① 2003年07月21日
② 183cm / 92kg
③ 大阪府
④ 立命館大学
⑤ 立命館大学



ラインバッカー

#3 LB
久下 裕一郎
Yuichiro Kuge

① 1996年04月03日
② 172cm / 85kg
③ 兵庫県
④ 立命館大学
⑤ FTI) アライアンス
事業推進室



ランニングバック

#4 RB
山崎 大央
Daichi Yamazaki

① 2002年10月28日
② 172cm / 78kg
③ 大阪府
④ 立命館大学
⑤ パブリック事業本部



キッカー / パンター

#5 K/P
納所 幸司
Koji Noshio

① 1991年10月22日
② 178cm / 90kg
③ 福岡県
④ 久留米大学
⑤ FS&I事業本部



ラインバッカー

#6 LB
徳茂 宏樹
Hiroki Tokumo

① 1997年08月22日
② 176cm / 86kg
③ 大阪府
④ 明治大学
⑤ 総務本部



ディフェンスバック

#7 DB
ブロンソン
ビーティー
Bronson Beatty

① 1994年03月07日
② 188cm / 90kg
③ アメリカ
④ 日本大学
⑤ Employee Success
本部(競技専任)



ディフェンスバック

#25 DB
中野 遼司
Ryoji Nakano

① 2002年06月10日
② 175cm / 80kg
③ 兵庫県
④ 関西学院大学
⑤ Banking&Securities
事業本部



ランニングバック

#26 RB
横川 豪士
Goshi Yokogawa

① 2000年10月11日
② 175cm / 81kg
③ 奈良県
④ 立命館大学
⑤ パブリック事業本部



ディフェンスバック

#27 DB
浅賀 大生
Daisei Asaka

NEW

① 2003年09月01日
② 183cm / 84kg
③ 東京都
④ 法政大学



ランニングバック

#28 RB
香川 将成
Masanari Kagawa

① 1998年10月03日
② 165cm / 80kg
③ 兵庫県
④ 関西外語大学
⑤ FTIC) インフラ
事業本部



ディフェンスバック

#29 DB
林 奎佑
Keisuke Hayashi

① 1998年07月10日
② 182cm / 92kg
③ 神奈川県
④ 立命館大学
⑤ プロセス製造事業本部



ワイドレシーバー

#31 WR
松岡 大聖
Taisei Matsuoka

NEW

① 2003年10月10日
② 186cm / 84kg
③ 神奈川県
④ 中央大学



ディフェンスバック

#32 DB
近田 優貴
Yuki Konta

VICE

① 1996年11月10日
② 169cm / 77kg
③ 神奈川県
④ 立命館大学
⑤ FTI) アライアンス
事業推進室



タイトエンド

#33 TE
高口 和起
Kazuki Takaguchi

① 1993年07月02日
② 176cm / 102kg
③ 東京都
④ 日本大学
⑤ トヨタユニット



クォーターバック

#8 QB
濱口 真行
Masayuki Hamaguchi

① 2001年01月18日
② 175cm / 75kg
③ 大阪府
④ 関西大学
⑤ ジャパン・グローバル・
ゲートウェイ



ディフェンスライン

#9 DL
宮川 泰介
Taisuke Miyagawa

VICE

① 1998年02月26日
② 185cm / 105kg
③ 東京都
④ 日本大学
⑤ 総務本部



ワイドレシーバー

#10 WR
サマジー
グラント
Samajee Grant

① 1995年06月25日
② 175cm / 80kg
③ アメリカ
④ アリゾナ大学
⑤ Employee Success
本部(競技専任)



ワイドレシーバー

#11 WR
木村 和喜
Kazuki Kimura

① 1998年05月26日
② 174cm / 79kg
③ 滋賀県
④ 立命館大学
⑤ テクノロジビジネス
マネジメント本部



ラインバッカー

#35 LB
竹内 修平
Shuhei Takeuchi

① 1989年03月03日
② 183cm / 100kg
③ 長野県
④ 日本福祉大学
⑤ ミッションクリティカル
システム事業本部



ラインバッカー

#39 LB
川村 智紀
Tomoki Kawamura

① 2001年04月22日
② 178cm / 86kg
③ 千葉県
④ 法政大学
⑤ ソーシャルシステム
事業本部



ディフェンスバック

#40 DB
波田 和也
Kazuya Namita

① 2001年08月17日
② 170cm / 75kg
③ 大阪府
④ 関西学院大学
⑤ ナショナルセキュリティ
事業本部



ラインバッカー

#41 LB
前野 貴一
Kiichi Maeno

① 2000年09月05日
② 176cm / 87kg
③ 大阪府
④ 関西大学
⑤ セネラルビジネス
事業本部



ディフェンスバック

#12 DB
北川 太陽
Taiyo Kitagawa

① 1999年10月31日
② 183cm / 92kg
③ 神奈川県
④ 関西学院大学
⑤ モビリティ事業本部



ワイドレシーバー

#13 WR
高津佐 隼矢
Shunya Kotsusa

① 1996年08月27日
② 173cm / 79kg
③ 神奈川県
④ 法政大学
⑤ ビジネスマネジメント
本部



ディフェンスバック

#14 DB
高口 宏起
Hiroki Takaguchi

① 1997年05月31日
② 174cm / 82kg
③ 東京都
④ 日本大学
⑤ FNETS) ビジネス
イノベーション本部



ワイドレシーバー

#16 WR
糸川 幹人
Mikito Itokawa

① 2000年08月24日
② 175cm / 81kg
③ 大阪府
④ 関西学院大学
⑤ グローバル
マーケティング本部



ディフェンスバック

#42 DB
東田 隆太郎
Ryutaro Higashida

NEW

① 2004年02月13日
② 185cm / 88kg
③ 兵庫県
④ 関西学院大学



ディフェンスバック

#43 DB
井本 健一郎
Kenichiro Imoto

① 1995年12月14日
② 175cm / 80kg
③ 東京都
④ 慶應義塾大学
⑤ ソーシャルシステム
事業本部



ラインバッカー

#44 LB
趙 翔来
Shoki Cho

① 1994年12月08日
② 184cm / 100kg
③ 神奈川県
④ 日本大学
⑤ モビリティ事業本部



ラインバッカー

#50 LB
海崎 悠
Yu Kaizaki

① 1998年07月30日
② 173cm / 82kg
③ 大阪府
④ 関西学院大学
⑤ プロセス製造事業本部



ラインバッカー

#51 LB
山田 敦也
Atsuya Yamada



① 2000年11月01日
② 181cm / 90kg
③ 千葉県
④ 法政大学
⑤ FJ)) ソーシャル
システム事業本部

ディフェンスライン

#52 DL
川出 奨悟
Shogo Kawade



① 2002年7月29日
② 180cm / 110kg
③ 東京都
④ 法政大学
⑤ ソーシャルシステム
事業本部

ディフェンスライン

#53 DL
高橋 孝綺
Koki Takahashi



① 1995年11月16日
② 182cm / 120kg
③ 神奈川県
④ 法政大学
⑤ FT)R プロ)
総務サービス本部

オフェンスライン

#55 OL
安東 純一
Junichi Ando



① 1996年05月04日
② 183cm / 126kg
③ 京都府
④ 立命館大学
⑤ ビジネスマネジメント
本部

ディフェンスライン

#90 DL
藤谷 雄飛
Yuhi Fujitani



① 1994年02月24日
② 182cm / 100kg
③ 大阪府
④ 関西大学
⑤ ビジネスマネジメント
本部

ディフェンスライン

#91 DL
池田 泰一郎
Taichiro Ikeda



① 1997年10月17日
② 182cm / 105kg
③ 福岡県
④ 西南学院大学
⑤ ナショナルセキュリティ
事業本部

ディフェンスライン

#93 DL
渋谷 力
Riki Shibuya



① 2001年05月10日
② 174cm / 108kg
③ 東京都
④ 京都大学
⑤ FJ)) ヘルスクエア
事業本部

ディフェンスライン

#95 DL
宇田 正男
Masao Uda



① 1999年02月08日
② 175cm / 107kg
③ 静岡県
④ 日本大学
⑤ ソーシャルシステム
事業本部

オフェンスライン

#60 OL
山下 公平
Kohei Yamashita



① 1993年07月19日
② 180cm / 115kg
③ 大阪府
④ 関西大学
⑤ 総務本部

オフェンスライン

#61 OL
藤原 快
Kai Fujiwara



① 2001年02月08日
② 180cm / 118kg
③ 愛知県
④ 中央大学
⑤ ソーシャルシステム
事業本部

オフェンスライン

#64 OL
大久保 壮哉
Masaya Okubo



CAP

① 1997年12月07日
② 185cm / 137kg
③ 宮城県
④ 中央大学
⑤ FJ)) ソーシャルシステム
事業本部

オフェンスライン

#68 OL
大木戸 勇紀
Yuki Okido



NEW

① 2003年12月28日
② 187cm / 130kg
③ 埼玉県
④ 明治大学

ディフェンスライン

#96 DL
稲田 一聖
Issei Inada



NEW

① 2003年11月20日
② 180cm / 135kg
③ 兵庫県
④ 関西大学

ディフェンスライン

#97 DL
水谷 蓮
Ren Mizutani



① 2000年06月11日
② 186cm / 120kg
③ 大阪府
④ 立命館大学
⑤ ソーシャルシステム
事業本部

ディフェンスライン

#98 DL
渡邊 日向
Hyuga Watanabe



① 2002年06月03日
② 190cm / 125kg
③ 千葉県
④ 日本体育大学
⑤ FS & I 事業本部

ディフェンスライン

#99 DL
高橋 伶太
Ryota Takahashi



① 1990年10月14日
② 185cm / 100kg
③ 大阪府
④ 立命館大学
⑤ FNETS)
コーポレート
マネジメント本部

オフェンスライン

#70 OL
山田 麟太郎
Rintaro Yamada



① 2001年02月02日
② 184cm / 129kg
③ 京都府
④ 立命館大学
⑤ Finance&Public
事業本部

オフェンスライン

#71 OL
郭 宇寧
Yuning Kaku



① 1998年04月16日
② 188cm / 110kg
③ 中国
④ 日本大学
⑤ FTI) アイアンス
事業本部

オフェンスライン

#73 OL
葉山 湖太郎
Kotaro Hayama



① 1998年12月11日
② 187cm / 113kg
③ 神奈川県
④ 桜美林大学
⑤ パナソニックGユニット

オフェンスライン

#75 OL
福田 涼介
Ryosuke Fukuda



① 2001年04月09日
② 191cm / 128kg
③ 大阪府
④ 日本大学
⑤ 組立製造事業本部

オフェンスライン

#76 OL
鈴木 満冴貴
Masaki Suzuki



NEW

① 2003年04月30日
② 185cm / 123kg
③ 愛知県
④ 中央大学

オフェンスライン

#77 OL
山口 輝
Akira Yamaguchi



① 1998年05月19日
② 190cm / 135kg
③ 神奈川県
④ 中央大学
⑤ FT)R プロ)
総務サービス本部

オフェンスライン

#78 OL
森本 恵翔
Keisho Morimoto



① 2002年08月02日
② 193cm / 124kg
③ 和歌山県
④ 立命館大学
⑤ Finance&Public
事業本部

オフェンスライン

#79 OL
木坂 太一
Taichi Kisaka



① 2002年04月20日
② 187cm / 132kg
③ 京都府
④ 立命館大学
⑤ リテール&サービス
事業本部

ワイドレシーバー

#81 WR
坂本 アントニー
マウネディ
Anthony Mawunedi
Sakamoto



① 1997年04月06日
② 181cm / 83kg
③ 神奈川県
④ 神奈川大学
⑤ FHM) サービス
事業本部

ワイドレシーバー

#83 WR
柴田 源太
Genta Shibata



① 1995年10月05日
② 181cm / 89kg
③ 東京都
④ 慶応義塾大学
⑤ Employee Success
本部

ワイドレシーバー

#84 WR
神 優成
Yusei Jin



① 1998年10月26日
② 186cm / 84kg
③ 神奈川県
④ 法政大学
⑤ パブリック事業本部

ワイドレシーバー

#85 WR
松井 理己
Riki Matsui



① 1997年03月07日
② 185cm / 88kg
③ 兵庫県
④ 関西学院大学
⑤ ミッションクリティカル
システム事業本部

ワイドレシーバー

#86 WR
伊藤 優平
Yuhei Ito



NEW

① 2003年05月09日
② 182cm / 83kg
③ 千葉県
④ 立命館大学

キッカー / パンター

#87 K/P
内山 尋貴
Hiroki Uchiyama



① 2003年03月21日
② 177cm / 88kg
③ 東京都
④ 日本大学
⑤ Banking&Securities
事業本部

ワイドレシーバー

#88 WR
高津佐 隼世
Kotsusa Junsei



NEW

① 2003年04月04日
② 174cm / 85kg
③ 神奈川県
④ 法政大学

タイトエンド

#89 TE
福井 雄哉
Yuya Fukui



① 1992年01月09日
② 187cm / 90kg
③ 岐阜県
④ 武蔵大学
⑤ FTI) システム・サービス
サポート本部

STAFF PROFILE



部長
保田 益男
Masuo Yasuda



後援会長
福田 譲
Yuzuru Fukuda



副部長
豊田 建
Ken Toyoda



ゼネラルマネージャー
常盤 真也
Shinya Tokiwa



ヘッドコーチ
山本 洋
Yo Yamamoto



事務局長
鈴木 将一郎
Shoichiro Suzuki

アシスタントヘッドコーチ

平井 基之
Motoyuki Hirai

オフェンスコーディネーター

富永 一
Hajime Tominaga
安木 達之
Tatsuyuki Yasuki

ディフェンスコーディネーター

海島 裕希
Yuki Umishima

スペシャルチームコーディネーター

中村 典正
Norimasa Nakamura

オフェンスコーチ

ケビン ライトナー
Keven Lightner

金 雄一
Yuichi Kon

宜本 慎平
Shinpei Yoshimoto

勝山 晃
Akira Katsuyama

岡田 義己
Yoshiki Okada

平本 恵也
Keiya Hiramoto

ディフェンスコーチ

松場 智紀
Tomoki Matsuba

黒川 航平
Kohei Kurokawa

アルリワン

アディヤミ
Al-Rilwan Adeyemi

バイロン
ビーティ ジュニア
Byron Beatty Jr.

奥田 凌大
Ryota Okuda

トラショーン
ニクソン
Trashaun Nixon

奥野 公平
Kohei Okuno

樋田 祥一
Shoichi Hida

吉規 晃弘
Akihiro Yoshiki

スペシャルチームコーチ

後藤 大地
Daichi Goto

佐藤 真美
Masami Sato

ストレングスコーチ

田村 謙太郎
Kentaro Tamura

八島 彬
Ayato Yashima

事務局

伊藤 桃代
Momoyo Ito

内匠屋 咲紀
Saki Takumiya

道野 真優
Mayu Michino

マネージャー

太田 佳奈
Kana Ota

近喰 春香
Haruka Konjiki

佐々木 陽菜
Hina Sasaki

小杉 優
Yu Kosugi

栗田 琳
Rin Kurita

野上 詩乃
Shino Nogami

石田 千尋
Chihiro Ishida

長島 瑞記
Tamaki Nagashima

スタッフ

野沢 研
Ken Nozawa

吉井 勇輔
Yusuke Yoshii

クリエイター

對馬 隆太
Ryuta Tsushima

アドバイザー

興 亮
Makoto Koshi

ドクター

眞田 高起
Takaki Sanada

ヘッドトレーナー

井澤 秀野
Hideya Izawa

トレーナー

神永 健介
Kensuke Kaminaga

CLOSE UP INTERVIEW

本来の自分たちを作り直す リビルディング

HEAD COACH ヘッドコーチ

山本 洋

Yo Yamamoto



チームは“優勝”を知るメンバーが減り、世代交代に直面している。リーグのフォーマットが変わる今シーズン、この10年間で築き上げてきた土台を大事にしながら、自分たちを作り直すことで日本一奪還を目指す。

生まれ変わるのではなく 本来の自分たちを作り直す

—— 2025年度シーズンはライスボウル準決勝でパナソニックインパルスに敗れ、2シーズン連続で日本一を逃しました。「レギュラーシーズンで2敗して、準決勝で負けたのは、現状の実力だと理解しています。15年から24年までの10年間で8回優勝して、我々とパナソニック、オービックシーガルズが3強と言われたりもしましたが、他のチームも含めて追いつけ、追い越せでやってきた10年間です。



昨シーズンの決勝の時点で、取り組みも含めて相手に上回られたという認識でした。今シーズンもフィジカルでも1対1でも、相手に上回られたところがありました」
—— 自分たちの力を出し切れなかったのではなく、力が足りなかった、と？
「そう思います。1人ひとりが大きく劣っていたわけではありませんが、少しの差が結果として表われました」
—— チームスポーツですから、1人ひとりの比較でわずかでしかない差が、トータルで勝敗を分けることになります。「我々が結果を残していた間に、同じ企業チームのパナソニックが選手の採用なども含めて勝つための積み上げをされていて、それがここ2シーズンの結果に表われた、というとらえ方もできます。我々の歴史を辿れば、暗黒のような時代を経て結果を残してきた10年があり、優勝を知るメンバーが少なくなってきた。今は世代交代のタイミングにある、という認識です」
—— どんなチームでも世代交代は不可避です。そして、それは簡単ではありません。「結果を残した10年を土台として、作り上げてきたものを大事にしながら、ここでもう一度基礎固めをしていく。選手が入れ替わっているのだから、『これが富士通フロンティアーズのフットボールだ』というも

のを深く理解している選手が、まだ多くありません。そういう選手がパナソニックのベテランとビッグゲームで対峙すると、いろいろな違いが表面化してしまいます。選手には生まれ変わるのではなく、もう一度本来の自分たちを作り直すということで、リビルディングという言葉を使っています」
—— 世代交代とそのために必要な人材育成は、企業の組織マネジメントに通じます。「学生から社会人チームへ入ってきて、すぐに試合で通用する選手はほぼいません。我々は常に日本一を目指していますから、目の前の試合の結果にこだわりますが、並行して選手を育成していかなければ、数年後に結果を残せないということにつながりかねません。日本一をつかむのに値する選手を育てることが大事で、そこは焦らずにやっていきます」
—— アメリカンフットボールは11人でやるスポーツですから、チーム全体のスタンダードを高くしていくことが、勝利につながっていくのでしょうか。「いい選手やいい外国人選手が入ってくれば必ず勝てる、というわけではありません。自分たちで勝敗をコントロールするには、11人の7人から8人が対戦相手との比較で上回ることが大事です」



「チームカルチャーとして、常に謙虚な姿勢で学び続けるというものがある。他責思考にならずに自分自身に矢印を向ける。絶えず高みを目指していく行動規範があります」

—— 山本 洋 ヘッドコーチ

—— それによって、再現性が高まる。「と、思います。ビッグプレーやスーパープレーは、ゲームの数パーセントに過ぎないもので、90数パーセントはベーシックなものの積み上げです。試合中の選手は、ファンダメンタルを永遠に繰り返していると言っていいぐらいです。その精度が高いかどうかで、1つひとつのプレーのでき上がりも、最終的な結果も変わってきます」
—— ファンダメンタルと呼ばれる基礎的な部分にこだわるということは、プレーの細部にまで妥協しない、という言い方もできそうですね。「正しいプレーのできる選手がそろったチームは強い。僕はそう思っています」

1人ひとりがロイヤリティーを持ち 覚悟と責任を持って関わっていく

—— 今シーズンからリーグのフォーマットが変わります。春季シリーズとして5月から7月に4試合、秋季シリーズとして8月末から11月まで11試合が行なわれます。「今までは秋からのリーグ戦が本番という位置付けで、春のシーズンは前年度まであまり出場していない選手や若い選手を起用して、チームの総合力を上げる時間に充てていました。ロースター登録する選手の絞り込みを、夏まで引っ張ることができたのです。5月開幕になると、選手選考が非常に難しい。そこはポイントです」



—— シーズン中の練習内容や練習の強度なども、変わってきそうですね。「選手たちをいかにいい状態で送り出せるかは、2つ目のポイントになります。今までどおりの練習では、1シーズン持たないでしょう。練習メニューとか時間を考えて、疲労が蓄積しないようにしなければ」
—— 手探りのシーズンになりそうですね。「それだけに、いつも以上にコミュニケーションが大事になります。我々スタッフが思うことと選手の思いは、必ずしもすべて重なり合うわけではありません。こちらの意図を、選手たちにしっかり説明する。選手の声を取り上げる。そういった作業を絶えずやっていく必要があります」
—— Fujitsu Sports が掲げる「挑戦に終わりはない」のスローガンを、フロンティアーズにどのように落とし込んでいますか。「我々のチームカルチャーとして、常に謙虚な姿勢で学び続ける、というものがあります。試合で負けることがあっても、他責思考にならずに自分自身に矢印を向ける。絶えず高みを目指していく、という行動規範があります」
—— まさに挑戦し続ける、ですね。「言われたことだけをやっていては、一定のことしかできないし、一定の結果しか出ないでしょう。チームが良くなるために、1人ひとりがロイヤリティーを持ち、覚悟

と責任を持って関わっていく。そういう姿勢がチームを変えていくし、チームを強くしていきます。技術とかフィジカルだけではないということは、選手たちとも共有しています」
—— 心技体は等しく重要でしょうが、最上位は「心」でしょうか？
「日本一を争うレベルでの戦いでは、それに相応しい技術とフィジカルは備わっているもので、その2つを動かすのは『心』だと僕は考えます。仕事とフットボールを両立させながら、去年の自分を上回る。ライバルを上回る。同じことをやるだけでは結果は変わりませんから、自分になかったものをプラスするために、自分で考えて行動する。しっかりとしたメンタリティーがなければ、実践できないでしょう」
—— つまりは覚悟と責任が問われます。「日本一を獲れていないのは、それに見合う集団ではなかったということです。我々には足りないものがあった。その事実としっかり向き合って、結果を残せる組織作り、選手育成を意識していきます」

取材・文＝戸塚 啓

PROFILE

山本 洋

Yo Yamamoto

1975年1月12日生まれ。東京都出身。立教高校、桜美林大学でアメリカンフットボール部に所属。1997年に富士通フロンティアーズに入団して2006年に選手を引退。同チームでポジションコーチを務めたのち、アメリカでのコーチ留学を経て、2019年よりヘッドコーチに就任。これまでチームを4度のライスボウル優勝に導いている。



インタビューは
こちらにも
掲載しています

取り組みが結実した5年目の昨季
先達の引退に抱くエースへの覚悟

ランニングバック
#21 RB 三宅 昂輝 Koki Miyake

チームとして2年連続でタイトルを逃した結果に「悔しかった」と、三宅昂輝はくちびるを噛みしめる。

一方で、加入5年目の昨季は、選手として成長を実感した1年だった。

「1、2年目はケガが多く、今よりも身体も細く、得意のスピードですら社会人の速さに追いつけず、思うようなプレーができない時期を過ごしました」

フロンティアーズ加入後は、レベルの高さに圧倒され、自慢のスピードも活かせなかった。山本洋ヘッドコーチや金雄一コーチは、そんな三宅にフィジカルの強化を提案。2024年からは、田村謙太郎ストレングスコーチが行う通称“タムトレ”に加わ

り、瞬発力や体幹を鍛え、身体の強化を図ってきた。

「3、4年目に継続してきたことが形として表れるようになったのが昨季でした。これまでは相手にタックルを受けると、そこでプレーが止まっていたのが、倒れずに走って独走できるようになってきました」

第3節のOrientalBioシルバースター戦では、2度のタッチダウンを記録。IBM BIG BLUEとの第5節でも相手を振り払うランからタッチダウンするなど、成長を見せた。

ただし、ライスボウル決勝進出を逃したパナソニックインパルスとの一戦では、「チームに勢いをもたらすプレーができな

かった」と、エースランニングバックとしてチームをけん引するトランシェンニクソンとの差も実感。その背中を追いついて走ってきから、彼の引退を受けて覚悟は決まった。

「今までニック(ニクソン)が走ってチームが勝ってきた試合が多くありました。これからは自分がチームを助けられるようなエースになりたい」

ニクソンが引退したからエースになれるとは思っていない。Xリーグプレミアとしてスタートする今シーズンは、自らのランで力を証明して、エースランニングバックの座をつかみ取る。

取材・文＝原田 大輔



インタビュー
全文はこちらから



再び日本一になるまで
やめられない
自分たちの世代が
けん引する思い

ラインバック
#6 LB 徳茂 宏樹 Hiroki Tokumo



新たに始まるXリーグプレミアで、フロンティアーズが掲げる目標は「日本一」しかない。それは徳茂の原点に結びつく。野球少年が高校でアメリカンフッ

チームを変えるには、まず自分自身が変わる。王座奪還に向けて、徳茂宏樹はそう腹を決めている。

「チームメートに厳しい指摘をしたり、ミスを恐れずにチャレンジングなプレーをしたり、今年は自分のコンフォートゾーンから外れる行動を取るつもりです」

背景には昨シーズンの苦い経験がある。2年連続でタイトルを逃し、「特に負けた試合はフィールドコントロールがうまくできなかった」。ディフェンスチームの主軸として、その責任を重く受け止めている。

トボールに転向したのは、明確な理由があった。

「大阪は高校野球がめっちゃくちゃ強いので、強豪校とトーナメントで当たった瞬間に引退、みたいな感じなんです。それって面白くないなと思って。だったら日本一を目指すスポーツをやろうと」

しかし、関西大倉高校でも明治大学でも、頂点には届かなかった。「日本一になるまではやめられない」。その思いがフロンティアーズへの入団に導いた。

2021年度シーズンからのライスボウル3連覇を経験しているが、当時は年長者がチームを支えていた。「自分たちの世代」での優勝はまだできていない。

「2年前から同期の大久保(壮哉)が主将を務めているのに、自分たちの世代で日本一になれていないのはやっぱり悔しい。同期で旅行に行ったときも、そういう話になるんです。もう一度、連覇できるチームにならないといけないよなって」

日本一に憧れて競技を始めてから十余年。その思いは今も変わらない。

取材・文＝多賀 祐輔

インタビュー
全文はこちらから



向上心あふれるスピードスターは
三刀流に磨きをかける

ワイドレシーバー
#11 WR 木村 和喜 Kazuki Kimura

サイドを駆け上がり、パスを受けるWRは、良くも悪くも目立つポジションだ。キャッチが決まれば歓声を浴び、落とせば会場からため息が漏れる。

「そういった緊張感も含めて、見る側も一番面白いポジションじゃないですかね」

そう語る木村和喜は、パスプレーの成否だけでなく、チームの勝敗も背負う覚悟を示す。在籍5年目を迎え、フィールド内外で担う役割は変わってきた。

「昨シーズンもチーム力は上位に見られていましたが、日本一になれませんでした。通年制となる今シーズンは、なおさら誰か一人に頼るようなチームだと絶対に最後まで残れない。今までは先輩についていくだけで良かったけど、これからは自分が引つ

張らないといけないと思っています」

競技と社業を両立させながら、今シーズンも忙しい日々を送る。昨年からフラッグフットボール日本代表の活動にも参加。8月には世界選手権を控え、2028年にロサンゼルスで開催される世界最高峰の舞台を目指している。腰につけた旗を取ることがタックルの代わりとなるフラッグフットボールの経験は、“本職”であるWRとしての成長にもつながっていると実感を込める。

「狭いスペースでボールを取らないといけ

ないので、キャッチのスキルは確実に上がっています。そのおかげで、フロンティアーズの試合では落とす気がしません」

新たな挑戦に取り組める環境に感謝し、その機会を与えてくれた周囲のサポートには結果で報いるつもりだ。

「期待を裏切らないように、仕事もフットボールもフラッグも全部、頑張りたい」

向上心あふれるスピードスターは、妥協を許さず、“三刀流”に磨きをかけながら走り続ける。

取材・文＝多賀 祐輔



主将3年目のシーズンも誓う
自分に矢印を向け続ける姿

オフェンスライン
#64 OL 大久保 壮哉 Masaya Okubo

昨季、レギュラーシーズン2敗目を喫したあとのミーティングだった。大久保壮哉は、主将として選手全員に向かって言った。「誰かのせいにするのはやめよう」

決して誰かを批判するような声を聞いたわけではない。

「ただ、各々がいろいろな方向を見ているように感じて、自分たちに矢印が向いていない雰囲気を感じました。だから、(ライスボウルトーナメントの)準々決勝を迎えるに当たって、今一度、『自分にフォーカスしようぜ』と働きかけました」

それは彼自身が、主将である前に、個人として「自分に矢印を向け続けてきた」自負があるから、発することのできた言葉でもある。

「一昨年のライスボウル決勝で敗れたパナソニックインパルスやオービックシーガルズの強いDLに対して、自分がどうだったかを考えたとき、プレーにムラがありました。昨季は1年間、細かいところに目を向けてやり続けてきた結果、(ライスボウルトーナメント準決勝で)パナソニックに敗れたとはいえ、自分のステップの精度は高いレベルでできましたし、毎試合、安定したプレーができるようになりました」

プレーで示してきたから、チームメートは厳しい言葉にも耳を傾けているのだろう。「このチームは能力が高い選手が多いので、自分に矛先を向けて、チームのため

にやるのであれば、勝負できるだけの力はある。チームとして世代交代の時期を迎えています。だからこそ、みんなが変わっていかねばいけないとも思っています」

Xリーグプレミアとして通年制で行われる今季のチームスローガンは「覚悟」にした。主将として迎える3年目のシーズンも、誰よりも自分に厳しく、自分に矢印を向け続けることで、チーム全体を押し上げ、目標である「日本一」を取り戻す。

取材・文＝原田 大輔



破壊力のあるところを見せる
6年目の今季に目指すさらなる覚醒

ディフェンスライン
#95 DL 宇田 正男 Masao Uda

ディフェンスラインの中央にセットすることが多く、鋭い出足を武器にランストップパーとして地上戦を制圧。またパスラッシュも秀逸で、これまで大事な局面でQBサックのビッグプレーも披露してきた。2021年の入部以来、大きな故障がなく、試合に出続けるタフネスぶりも魅力だ。「確かに安定感は武器だと自分でも思います。でも近年はなかなか目立つプレーができていません。今季は1、2年目にがむしゃらにやっていた感覚を取り戻し、いい意味で深く考えず、アグレッシブさを発揮したいと思っています」

日本一を目標に掲げながら、ライスボウ

ル進出を果たせなかった昨季はコミュニケーションに課題があったと振り返る。オフENS、ディフェンス、スペシャルチームの垣根を越えて仲間を鼓舞し、声を掛け合う場面が少なかったが、今季はそうした役目を率先してやっていくつもりだ。「試合中だけでなく普段の練習からコーチングスタッフや他の選手の考えをしっかりと理解し、そのうえで自分の考えを周りに伝えていくつもりです。本音で語り合えるチーム作りのために、自分から積極的に声を出していきます」

個人としては各ポジションで年間最も活



躍した選手に与えられる「オールXリーグ」の称号を目指す。まだ手にしていないこの栄誉を受けるためにも、これまで以上の存在感を見せる。「LOS（ラインオブスクリメージ=攻撃ラインと守備ラインの間のボールが置かれる仮想の平行ライン）を支配し、自分のところにプレーが来なくなるくらい、破壊力あるところを見せます」

まどうことなき日本トップクラスのラインマン。6年目の今季はさらなる覚醒を期す。

取材・文=加藤 康博

経験を積んできた
キッカーは
自分を信じて蹴り込む

キッカー / パンター
#5 K/P 納所 幸司 Koji Noshō

昨季はフロンティアーズに加入してから初めてリーグ戦で2敗を喫した。「負けてからチームに危機感が生まれましたが、本来であればその前から気づくべきで、シーズン後半に焦りが出てしまったことがライスボウルに進めなかった原因だと思っています。負けていると他のユニットのせいにながちですが、自分のプレーに責任を持ち、それをフィールドで発揮していくことが何より大切です。昨年の結果で、私自身も含め、自分にベクトルを向ける重要性に気づいた選手が増えました」

タッチダウン後のトライフォーポイントやフィールドゴールを確実に決め、キックオフやパントでは敵がリターンしづらいところに確実に落とす。その仕事を淡々と

遂行していくことこそ、納所幸司の誇りだ。「特にキッカーは数字だけで評価されるポジションです。試合の流れを把握し、流れを呼び込むプレーをすると同時に、試合展開や点差を見てもプレッシャーを感じず、集中して確実に決めないとはいけません。試合展開を把握しつつも、そこに影響を受けず、やるべきプレーに徹することにこだわっています」

自身を「緊張しやすい性格」とも認める。試合で平常心を保つために日ごろから目標を口にして、自分にプレッシャーをかけると同時に、継続してきたトレーニングを続けるだけでなく、積極的に新たな取り組みを取り入れ、キックの精度を高め続ける。「最近はどうな試合展開でも、自分のことが信じられるようになってきました」

ベテランと呼ばれる年齢だが、年々キックの成功率が向上し、勝負どころでも自信を持って決められる手応えがある。進化の止まらない34歳。今季も平常心で蹴り込むつもりだ。

取材・文=加藤 康博



Fujitsu Sports ファンクラブのご紹介

Fujitsu Sports ファンクラブに関する情報・入力フォームはこちらをご覧ください。



Fujitsu Sports ファンクラブでは年会費【無料】で以下のサービスをご提供しております。会員様向けの情報は随時メルマガにてご案内してまいりますので、ご入会をお待ちしております。

※シーズン途中で提供可能となった特典については、随時メルマガにてご案内いたします。

特典 1



チーム情報のメルマガ配信

試合情報などのチームの情報を随時配信いたします。

特典 2



イベントなど先行案内

イベントやチケット販売情報など、会員の皆さんにいち早く情報をお届けします。

特典 3



会員価格でのグッズ購入

チームグッズが会員価格で購入可能です。

会員特典の一例



富士通陸上競技部
選手交流企画



富士通女子バスケットボール部
小学生限定ハイタッチキッズ



富士通アメリカンフットボール部
試合前フィールドツアー



富士通男子バレーボール部
ファン感謝イベント



女子チアリーダー部 フロンティアレッツ

女子チアリーダー部「Frontierettes」は富士通グループ社員にて構成されています。
『スポーツでこころとカラダを健やかに!』をテーマに掲げ、ホームタウンである川崎市を中心に
富士通スポーツの応援のみならず、地域活動や社会貢献活動などを行っています。



Yumeに
聞きました!

撮影/池田 理

Q 新シーズンのフロンティアレッツの「見どころ」は?

A 自然と参加したくなる、興奮と感動を生み出す参加型の応援が見どころです。声や動きを通して応援する楽しさを感じながら、一つひとつの動きに想いを込め、会場一体となって勝利へと導いていきます。新メンバーを迎え、応援する楽しさと高まる一体感を、ぜひ会場で体感してください。

Q キャプテンとして大切にしたいテーマは?

A 「常に進化し続けること」です。現状に満足することなく、より良い応援を追求し続けます。エレガントというチームコンセプトの通り、“美しく、粘り強く”その両面を大切にしながら、覚悟と誇りを胸に最善を尽くし、チーム全体を引き上げていきます。

Q Fujitsu Sportsの楽しみ方を教えてください。

A Fujitsu Sportsの魅力は、選手の本気、そしてそれを支えるすべての方の想いが重なった“圧倒的なホームの雰囲気”にあります。チームカラーである赤い服やグッズを身に付けて会場に来ていただければ、あなたも「富士通ファミリー」の一員です。ルールが分からなくても全く問題ありません。手拍子や声援で一緒に参加していただき、会場が一つになる瞬間をぜひ体感してください。共に戦い、勝利の瞬間を分かち合いましょう。試合会場でお待ちしております ^^



Kihoに
聞きました!

撮影/池田 理

Q MCとはどんな役割ですか?

A MCは、選手と観客の想いを一つにする存在です。選手を全力で後押ししながら、会場にいるお客様の声や想いを力に変えて、「みんなで戦っている」空気をつくり出す役割だと思っています。

Q 観客に伝えたいFujitsu Sportsの魅力は?

A Fujitsu Sportsの一番の魅力は、会場にいる全員が“ワンチーム”になれることです。選手だけではなく、応援しているお客様も、声を出して、手を叩いて、想いを届けることで、その瞬間から、同じチームの一員になれる。そんな一体感を感じられる場所です。

Q Fujitsu Sportsの楽しみ方を教えてください。

A ぜひ、声を出して、一緒に応援してください! 応援すればするほど、気持ちは熱くなり、日常では味わえない、心が震えるような時間を体験できます。その熱量は、きっと試合が終わったあとも残って、明日へのパワーや活力につながっていくはず。一緒に最高の瞬間をつくりましょう!



FRONTIERETTES MEMBER & STAFF FILE

富士通女子チアリーダー部フロンティアレッツ
メンバー・スタッフ名鑑

プロフィールの詳細は公式サイトでご覧いただけます。

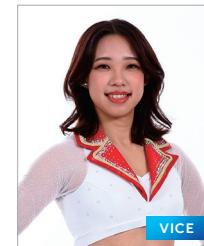


①出身校 ②ダンス歴 ③アピールポイント **CAP** =主将 **VICE** =副将 **ROOKIE** =新人



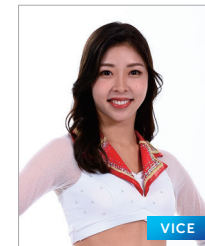
Yume

①法政大学②クラシックバレエ、パントフリンク、チアリーディング③ダイナミックに熱い想いを伝える訴求力



Momoka

①桜美林大学②ソングリーディング、新体操③柔軟な身体と思考で魅せる、臨機応変な対応力



Kiho

①関西学院大学②ジャズダンス、チアダンス、チアリーディング③しなやかで上品な表現とハスキーボイスのギャップ



Suzu

①中央大学②チアダンス、モダンバレエ③多彩で可憐な表情



Rino

①中央大学②チアダンス、クラシックバレエ③柔らかく周りを包み込む雰囲気とチア仕込みのテクニック



Keika

①玉川大学②チアダンス、ジャズモダンバレエ、タップダンス、ヒップホップ③オールラウンダーな表現力



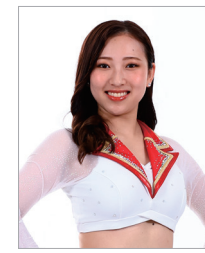
Sara

①法政大学②チアリーディング③皆を引き寄せるパワフルなボイス



Miari

①早稲田大学②クラシックバレエ③大きな目で引き込むお客様へのアイコンタクト♡



Wakaba

①日本女子体育大学②チアダンス、モダンダンス③ダンスサブルでエネルギッシュなパフォーマンス



Uka

①立命館大学②チアリーディング、パントフリンク、スケージダンス③細部までこだわった表情と美しいヘアエフェクト



Kyoko

①上智大学②チアリーディング、クラシックバレエ③素直な気持ちと感情を込めたまっすぐな表現力



Akari

①日本女子体育大学②チアダンス、クラシックバレエ③観ている人を明るくする、溢れるバイタリティ

STAFF PROFILE

部長
下御領 富夫
シニアアドバイザー
常盤 真也
スタッフ
山岸 亜未
高山 あかり

大橋 貴世
片平 瑞歩
久保田 志真子
倉橋 萌菜
高萩 佳奈
田中 菜
三浦 百恵
村松 佑華





女子バスケットボール部 富士通レッドウェーブ



1985年、選手の“自主性”をモットーに創部。同年、加入した関東実業団4部リーグで優勝すると、そこからわずか4年で、当時の日本リーグ2部に昇格。1993年、“赤い波が強豪チームを脅かす存在となるように”との思いから「レッドウェーブ」と命名されると、それを体現するように翌年、日本リーグ1部（現Wリーグ）に昇格。

2004年には全日本総合バスケットボール選手権大会（皇后杯）で創部以来初の決勝進出と躍進し、2006年に初優勝を飾ると、2008年まで三連覇。また、Wリーグでは、2007-08シーズ

ンに悲願の初優勝を果たし、二冠を達成。その後、2014-15・2015-16・2021-22に準優勝、2023-24には16年ぶりの優勝を手にした。

2024-25シーズンには17大会ぶりに皇后杯で優勝と、チーム初となるWリーグ連覇も達成した。

活動拠点である川崎市の「かわさきスポーツパートナー」としてバスケットボール教室の実施や、より多くの人々がスポーツを楽しめるよう、センサリールームでの観戦体験の提供など、社会貢献活動にも力をいれ、健康で豊かな未来の実現に向けて、挑み続けている。

創部

1985年

Wリーグ優勝

3回

皇后杯優勝

4回

チーム公式
マスコット
レッディ



レッドウェーブ Wリーグ 2025-26シーズン結果

大樹生命 Wリーグ 2025-26 レギュラーシーズン

シーズン
3位

外国籍登録規定が大幅に緩和された今シーズンをディフェンディングチャンピオンとして迎えたレッドウェーブは、チームの特色でもある強固なディフェンスと高いシュート成功率を武器にシーズンを戦い抜き、16勝12敗のシーズン3位でプレーオフ進出を決めた。



京王電鉄 presents Wリーグプレーオフ 2025-26

第3位

セミファイナルの対戦チームは昨年のファイナルで優勝を競ったデンソーアイリス。ともに1勝1敗で迎えた最終戦はラスト5秒まで1点差で競い合うも58-59で惜敗し、今シーズンを第3位で終えた。

今シーズンの悔しさを胸に刻み 王座奪還を目指して励んでいく

日下 光 ヘッドコーチ

私たち富士通レッドウェーブは、今シーズン「Wリーグ3連覇・皇后杯連覇」を目標に掲げ、チームスローガンを「挑-CHALLENGE-」とし、チーム一丸となりこの高い目標へと挑んでまいりました。

最終成績としては、Wリーグはプレーオフ進出もセミファイナルで敗れ3位、皇后杯も3位という悔しい結果となりました。

Wリーグでは今シーズンから外国籍選手に関するルールの緩和により各チームの戦力がより拮抗したこともあり、レギュラーシーズンはなかなか波に乗り切れない時期が続きました。そのなかでも徐々に新しいチームの形を構築し、レギュラーシーズン終了後から修正と強化を図り、集大成のプレーオフへと挑みました。

2戦先勝方式のセミファイナルでは、昨シーズンにファイナルで対戦したデンソーと最終戦の第3戦までもつれ込みました。序盤に大幅にリードされたもののベテラン陣の気迫のこもったプレーで追い付き、一進一退の攻防の末、最後は1点差での惜敗となりました。

しかし敗れはしたものの、富士通らしい激しいディフェンスからリズムをつかみ、強みである人もボールもよく動くチームオフェンスが多く見られ、来シーズンにつながる収穫を得ることができました。

来シーズンは、チーム全員が今シーズンの悔しさを胸に刻み込み、個人・チームともにさらにレベルアップし、王座奪還を目指して励んでまいります。

引き続き熱いご声援をよろしくお願いいたします。





RED WAVE PLAYER & STAFF FILE

富士通女子バスケットボール部
レッドウェーブ
選手・スタッフ名鑑

プロフィールの
詳細は公式サイトで
ご覧いただけます。



PROFILE: ①生年月日 ②身長 ③出身 ④出身校 ⑤所属 ⑥競技歴 **マーク一覧:** **NEW** = 新加入選手 **CAP** = キャプテン **SUB** = 副キャプテン **EARLY** = 新年度加入選手

※掲載内容は2026年4月20日現在の情報です。

PLAYER'S PROFILE

2025-26シーズン チームロスター

ポイントガード
#0 PG
山田 葵
Aoi Yamada
コートネーム
アオイ
NEW

①2003年02月10日
②167cm ③愛知県 ④筑波大学
⑤リテール&サービス事業本部
⑥瀬戸ミニバスケットボールクラブ
→ポラリス→東京成徳大学高
→筑波大→富士通

シューティングガード
#2 SG
林 真帆
Maho Hayashi
コートネーム
マホ

①2002年02月22日
②174cm ③神奈川県
④東京医療保健大学
⑤FS&I 事業本部
⑥レッドサウス→中川中→岐阜女子高
→東京医療保健大→富士通

シューティングガード
#7 SG
林 咲希
Saki Hayashi
コートネーム
キキ
SUB

①1995年03月16日
②173cm ③福岡県
④白鷗大学
⑤CEO室
⑥雷山ミニ→前原中→精華女子高
→白鷗大→ENEOS→富士通

センター
#8 C
**ジョシュア
ンフォンボン
テミトペ**
Joshua Mfonobong
Temitope
コートネーム
デミ

①2000年03月18日
②190cm ③ナイジェリア
④東京医療保健大学
⑤みずほFGユニット
⑥高知中央高→東京医療保健大
→富士通

シューティングガード
#23 SG
佐藤 華純
Kasumi Sato
コートネーム
ソフ
NEW

①2001年10月15日
②171cm ③アメリカ ④シカゴ大学
⑤Employee Success本部
⑥Colfax小中→Legendz Athletics
→Taylor Allderderice 高
→シカゴ大→富士通

スモールフォワード
#25 SF
内尾 聡菜
Akina Uchio
コートネーム
キラ

①1997年08月16日
②177cm ③福岡県
④福岡大学附属若葉高校
⑤Employee Success本部
⑥小倉ミニ→南小倉中
→福岡大附若葉高→富士通

パワーフォワード
#52 PF
宮澤 夕貴
Yuki Miyazawa
コートネーム
アース
CAP

①1993年06月02日
②183cm ③神奈川県
④金沢総合高校
⑤リテール&サービス事業本部
⑥鶴来ミニ→鶴来中→足羽高
→アイシンAW(現アイシン)
→トヨタ自動車→富士通

パワーフォワード
#81 PF
宮下 希保
Kiho Miyashita
コートネーム
キホ

①1998年10月06日
②178cm ③石川県 ④足羽高校
⑤ナショナルセキュリティ事業本部
⑥鶴来ミニ→鶴来中→足羽高
→アイシンAW(現アイシン)
→トヨタ自動車→富士通

シューティングガード
#9 SG
赤木 里帆
Riho Akagi
コートネーム
ヨウ

①1998年08月04日
②167cm ③大分県
④東京医療保健大学
⑤パブリック事業本部
⑥豊府小→戸次中→桜花学園高
→東京医療保健大→富士通

ポイントガード
#10 PG
町田 瑠唯
Rui Machida
コートネーム
ルイ

①1993年03月08日
②163cm ③北海道
④札幌山の手高校
⑥旭川西御料地ミニ→緑が丘中
→札幌山の手高→富士通
(ワシントン・ミスティクス→富士通)

シューティングガード
#11 SG
前澤 滯
Mio Maezawa
コートネーム
シイ
NEW

①1991年09月12日
②167cm ③神奈川県
④松蔭大学
⑤Employee Success本部
⑥若葉台北小クラブ→旭中
→金沢総合高→松蔭大→富士通

スモールフォワード
#12 SF
奥 伊吹
Ibuki Oku
コートネーム
イブ

①1998年04月10日
②174cm ③奈良県 ④松蔭大学
⑤富士通企業年金基金
⑥辰市ミニ→京都精華女子中
→大阪薫英女学院高→松蔭大
→富士通

パワーフォワード
#91 PF
大脇 晴
Haru Owaki
コートネーム
ハル
EARLY

①2004年03月04日
②177cm ③山口県
④東京医療保健大学
⑥リベルタ→小郡ミニ→山口市立小郡中
→慶進高→東京医療保健大→富士通

STAFF PROFILE

顧問
平松 浩樹
Hiroki Hiramatsu

後援会長
古濱 淑子
Yoshiko Furuhama

部長兼
ゼネラルマネージャー
吉田 大輔
Daisuke Yoshida

スーパーバイザー
丸山 茂実
Shigemitsu Maruyama

ヘッドコーチ
日下 光
Hikaru Kusaka

トップアシスタント
コーチ
後藤 祥太
Shota Goto

アシスタントコーチ
蔵楽 建斗
Taketo Zoraku

アナリスト
有賀 早希
Saki Ariga

ストレングスコーチ
平井 悠斗
Yuto Hirai

ヘッドトレーナー
大島 久美子
Kumiko Oshima

トレーナー
藤巻 みのり
Minori Fujimaki

チーフマネージャー
原田 知歩
Chiho Harada

マネージャー
大原 千佳
Chika Ohara

マネージャー
芦崎 凜
Rin Ashizaki

KAWASAKI RED SPIRITS

富士通男子バレーボール部
カワサキレッドスピリッツ
チーム紹介



「明るく 楽しく そして強く」

私たちは、1979年の創部以来、「明るく 楽しく そして強く」をモットーに、仕事とバレーボールの両立に挑み続けてきました。スポーツ選手として最高峰の舞台で戦うことを目指すとともに、企業の一員として仕事においても責任を果たし、常にベストを尽くすこと。

その姿勢こそが、社員・地域・ファンの皆さまに愛され、信頼される唯一無二のチームであるための礎であると考えています。バレーボールを通じて多くの方に元気と感動をお届けできるよう、選手一人ひとりが全力で競技を楽しみ、いかなる困難にも真摯に向き合います。

その歩みを通じて、関わるすべての人々の well-being（心身の充実）に貢献し続けられるチームを目指し、これからもさらなる高みへ挑戦してまいります。

今後とも温かいご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。

1979年に川崎工場の9人制から派生する形で発足。寄せ集めのメンバーから口コミで集まった経験者を中心に力をつけ、1983年の第4回東部地域リーグに初参戦。上位リーグであるV1昇格を目指し奮闘するも長年結果が振るわず、23シーズン目の2006年に念願のV1昇格を果たす。

2006/07シーズンよりV1リーグから改称した、V・チャレンジリーグに参戦。2008/09シーズンから3シーズン連続で準優勝、V・プレミアリーグとの入替戦を戦っている。2015/16シーズンには念願の初優勝を果たし、2017/18～2020/21の4シーズンは全て優勝。（うち2020/21シーズンは全勝優勝）2018/19シーズンからV・DIVISION2としてリーグが再編されたが、2006年の参戦から通算18シーズンを2nd カテゴリーと位置付けられるリーグに所属し続け、2023/24シーズンまでに370試合を戦い290勝80敗（勝率78.4%）という安定した強さをを見せている。

〈カワサキレッドスピリッツの由来〉

富士通発祥の地である「カワサキ：川崎市」と当時の富士通のコーポレートカラーである「赤：ヒューマニティレッド」に燃え上がる様な熱い「精神、魂」をイメージとして表現し、更にはスローガンの「明るく、楽しく、そして強く」をイメージさせる「快活さ」それらすべてを総合して「カワサキレッドスピリッツ」というチーム名を制定しました。



RED WOLVES

富士通男子バスケットボール部
レッドウルブズ
チーム紹介

「明るく、元気に、ひたむきに」

富士通男子バスケットボール部 レッドウルブズは、1946年 富士通信機製造（現富士通）に入社した池田敏雄元専務により、創設された実業団チームであり、全国でも有数の歴史と伝統のあるチームです。創部以来、旧関東実業団バスケットボール連盟へ加盟し、現在は全日本社会人バスケットボール連盟 SBL-SB1 トップリーグ（全8チーム）で活動しております。

現在は、選手17名とスタッフ7名が在籍。川崎市を拠点に、文武両道を目指しながら、アマチュア日本一を目指して活動しています。また、当部はスポーツの強化・普及を目的に、地域社会貢献活動として、連盟主催のバスケットボールクリニックや震災復興支援としてバスケットボールクリニック開催など、競技以外の場でも積極的な活動を行っております。



かわさきスポーツアンバサダー

富士通カワサキレッドスピリッツは2023年4月、レッドウルブズは2025年4月に川崎市の「かわさきスポーツアンバサダー」に認定されました。

「かわさきスポーツアンバサダー」は、川崎市内を拠点とした競技活動に加え、意欲的に地域貢献活動を展開しているスポーツ団体に与えられる認証で、認定から3年間活動します。



富士通水泳部 チーム紹介

富士通水泳部は、1953年に当時の川崎工場の水泳経験者を中心に創部し、今年で創部71年になる歴史と伝統のあるチームです。

「文武両道」モットーに、日々の業務とトレーニングに励んでいます。創部以来、全日本級の選手や日本選手権・ジャパンオープン・ワールドカップ等の大会で入賞する選手を多数輩出しており、日本水泳界を代表する社会人チームとして活動してまいりました。近年は、パラアスリートも加入し、ジャパンパラ競技会・日本パラ水泳競技大会で優勝するなど、輝かしい成績を残しています。

現在は、16名の選手が在籍し、一人一人が企業スポーツ選手としての自覚を持ち、競技だけではなく、水泳やトレーニングを通じてもっと元気に、未来に繋がる社会貢献にも取り組んでいます。



Swimming

富士通ゴルフ部 チーム紹介

2002年に創部。翌年に全日本実業団に初出場したゴルフ部は、新入社員から経営層まで幅広い層で構成され、富士通グループの「Fujitsu Way」を体現し、ゴルフを通じてその価値観を社会に訴求することを理念としています。

現在の目標は、「日経カップ企業対抗ゴルフ選手権」へ出場・シード権獲得で、部員は仕事と部活動の両立を図りながら、個々の効率的な練習と選手間の競争を通して、部全体のレベル向上に努めています。スポーツマンシップを重んじ、ラウンドを通じて「気持ちいい人達」として認識されることを目指しています。日々の練習に励み、チームとして成長を続けています。



Golf

富士通馬術部 チーム紹介



Equestrian

1956年、当時の川崎工場に創部。コース上の障害物を早く、かつミスなく飛び越える技術の高さとタイムを競う「障害馬術飛越競技」に取り組み、現在は35名の部員が活動しています。

合同練習や合宿を重ねて技術力と団結力の向上に励み、2014年に「全日本実業団障害馬術大会」で初優勝を飾ると、2016年、2018年、2021年に優勝を果たし、中級、初級者向け「JBG ホースフェスティバル」では4大会連続団体優勝という輝かしい実績を残しています。

今年度の目標は、全日本クラスとなるこの2大会で団体優勝することで、既に「JBG ホースフェスティバル」は団体優勝を果たしました。今後も人馬一体の美しさと競技への情熱を胸に、新たな挑戦を続けていきます。

富士通明石工場バレーボール部（9人制） チーム紹介



Volleyball

1968年、富士通明石工場〔当時 富士通周辺機（株）〕に創設されたバレーボール部を起源とする9人制バレーボールの実業団チームです。

創部以来、国民体育大会など数々の国内主要大会で通算35回の日本一を達成した、全国でも歴史と伝統のあるチームです。

現在は兵庫県を拠点に仕事を第一に、競技と両立しながら日々練習に励み、2025年にはトップリーグにて優勝を果たして17年ぶりの日本一に輝きました。

地域貢献活動としても兵庫県と障害者スポーツ応援協定を締結し、シッティングバレー大会への参加や小中学生向けバレーボール教室の開催、練習環境周辺の清掃活動など、競技以外の場でも積極的に活動しています。

Fujitsu Sports SDGs

スポーツの力で持続可能な社会の実現へ

Our Inclusive Future

スポーツ×アクセシビリティの未来

観戦のやすさがひろがる体験へ

センサリールームでのスポーツ観戦体験

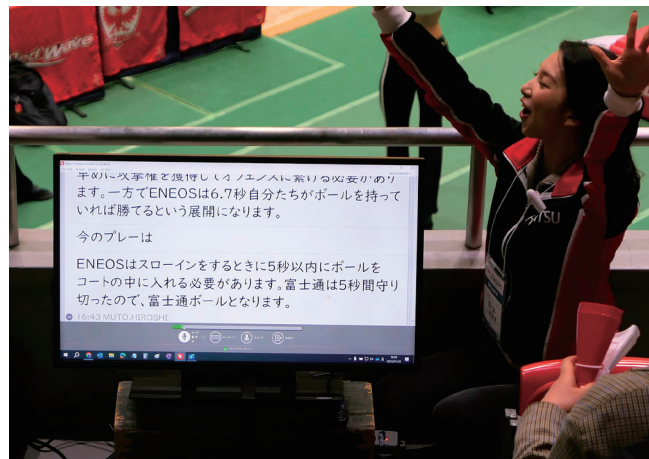
富士通は、誰もが安心してスポーツを楽しめる未来の実現を目指し、感覚過敏のある子どもとその家族に向けた観戦の機会を提供しています。2022年には、アメリカンフットボールXリーグおよび女子バスケットボールWリーグとともに初となるセンサリールームを会場に特別設置し、その後も主要大会やホームゲームへ導入を広げてきました。静かな空間で試合の熱気を感じられるこの取り組みは、スポーツ観戦の選択肢をひろげるものとして、『KIDS DESIGN AWARDS 2023』や『IAUD 国際デザイン賞 2023（金賞）』を受賞しています。



※センサリールーム：大きな音や強い光、人込みが苦手な子どもたちでも安心して観戦できるよう、遮音などの工夫が施された特別観戦室。

アクセスマップ(バリアフリーマップ)の作成・配布

アクセスマップは、車いすやベビーカーでも安全に通行しやすいよう、段差・傾斜・障害物などが少ないルートを示した地図です。富士通は、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた活動の一環として、Fujitsu Sportsの選手・サポーター・自治体・ボランティアの皆さまと協力しながら、バリアフリーマップの作成・配布に取り組んでいます。不定期でアップデートしていますので、スポーツ観戦の際にぜひご活用ください。



テクノロジーで広がる観戦のたのしさ (聾学校招待等)

富士通は、聴覚に障がいのある方を対象に、スポーツ観戦の情報アクセスを支える取り組みを進めています。聾学校の生徒を招待した昨年1月のレッドウェーブのホームゲームでは、富士通のツール「LiveTalk」で音声を文字に変換し、座席近くのモニターに表示することで試合の流れや見どころを視覚的に伝えました。また、音を体で感じる「Antenna」を用いて富士通チアリーダー部の応援のリズムを振動と光で体感できるようにし、会場の一体感を共有しました。今年は新たに手話実況も実施し、より幅広い方々へ観戦のやすさがひろがる機会を提供しています。



※各種マップは、Fujitsu Sportsの公式WEBサイトからダウンロードできます。

Our Activity

スポーツ×学びの出発点

地元の子どもたちとのスポーツ交流

川崎市は、スポーツ推進と市のイメージアップを目的に、地元トップ6チームを「かわさきスポーツパートナー」として認定しています。レッドウェーブ(2004年認定)とフロンティアーズ(2006年認定)もその一員であり、地域のスポーツ振興のみならず、教育・福祉・環境・まちづくりなど、多方面で地域社会への貢献を続けています。

■かわさきスポーツパートナー

市制80周年(2004年)事業の一環として始まった制度。川崎フロンターレ(サッカー)、川崎プレイサunders(男子バスケットボール)、富士通レッドウェーブ(女子バスケットボール)、NECレッドロケッツ川崎(女子バレーボール)、富士通フロンティアーズ(アメリカンフットボール)、東芝ブレイブアレウス(社会人野球)の6チームが多方面にわたる地域貢献を実施。



川崎市ふれあいスポーツ教室

川崎市ふれあいスポーツ教室は、「かわさきスポーツパートナー」に認定されたチームの選手が市内の小学校を訪問し、体育の授業時間を利用して子どもたちに実技指導を行う、地域密着型のスポーツ体験授業です。

レッドウェーブは2004年から参加し、バスケットボールを通じて子どもたちにスポーツの楽しさを伝えてきました。またフロンティアーズは2010年から本格的に参加し、現在ではフラッグフットボールだけでなく、アメリカンフットボールの動きを取り入れた実践的な授業も実施しています。選手と児童が直接ふれあうことで、スポーツを身近に感じる機会を生み、地域とのつながりを深める取り組みになっています。

Our Action and Legacy

スポーツ×コミュニティの未来

地域とつながる、もうひとつのフィールド

スポーツには、社会課題を解決し、未来を切り拓く力があります。富士通レッドウェーブは年間を通じて、「挑戦の支援」と「地域との共生」を軸に社会貢献活動を展開し、社会にポジティブな変化をもたらしています。

【マッチデープロジェクト】



フードドライブ・衣類リサイクルの取り組み

ホームゲーム会場を活用し、フードドライブと衣類リサイクルを実施しています。選手たちは試合前にWEBやSNSで呼びかけを行い、集まった食品は、神奈川県内の「子ども食堂」での食事提供や、生活に困っている家庭への支援に役立てられています。衣類は川崎市臨海部のリサイクル工場に送られ、プラスチック成分が抽出された後、新たな繊維の原料や水素自動車の燃料、ドライアイスなどへと再活用されます。

10月ピンクリボン・11月オレンジリボン活動

シーズン中の10月に乳がんの早期発見・治療の大切さを伝える「ピンクリボン」、11月には子ども虐待防止を訴える「オレンジリボン」運動を推進しています。選手たちは試合時にピンクやオレンジのアイテムを身に付け、メッセージを発信。さらに会場では募金活動も実施し、各団体へ寄付しています。



■「Sports for Nature」のフレームワークに署名

富士通株式会社と川崎フロンターレは、「Sports for Nature」のフレームワークに賛同し、日本国内のスポーツチームとして初めて署名しました。フロンティアーズとレッドウェーブは、試合会場などでの衣類リサイクルを通じて、地域と連携した資源循環を進めています。これらの取り組みを通じて、スポーツファンに環境保護の大切さを伝え、一人ひとりの行動変容を促す存在を目指します。



※ Sports for Nature:
自然および天然資源の保全に関する国際同盟である国際自然保護連合、国際オリンピック委員会、国連環境計画、生物多様性条約事務局、およびドナ・ベルタレリ慈善財団が共同で立ち上げたイニシアチブです。2030年以降を見据えて、スポーツ界全体で自然保護に向けた抜本的な行動を推進することで、スポーツを通じた自然の保護や回復への貢献を目指しています。